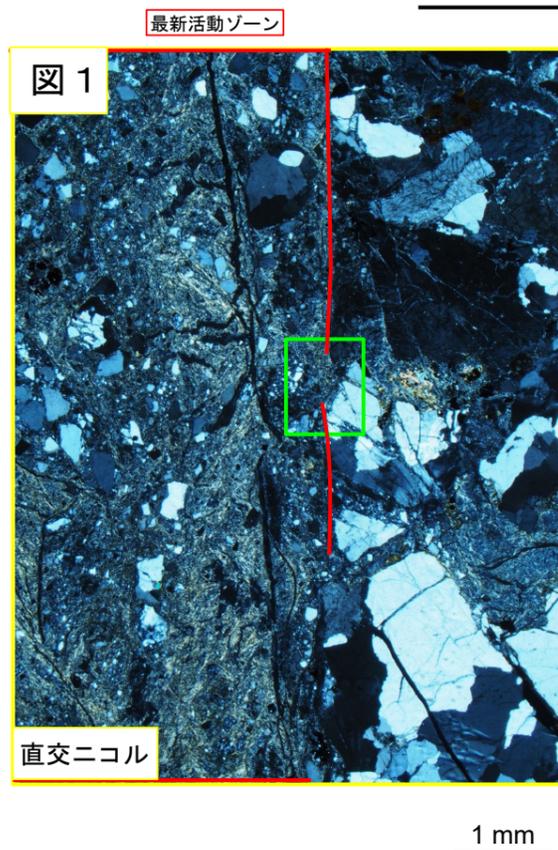
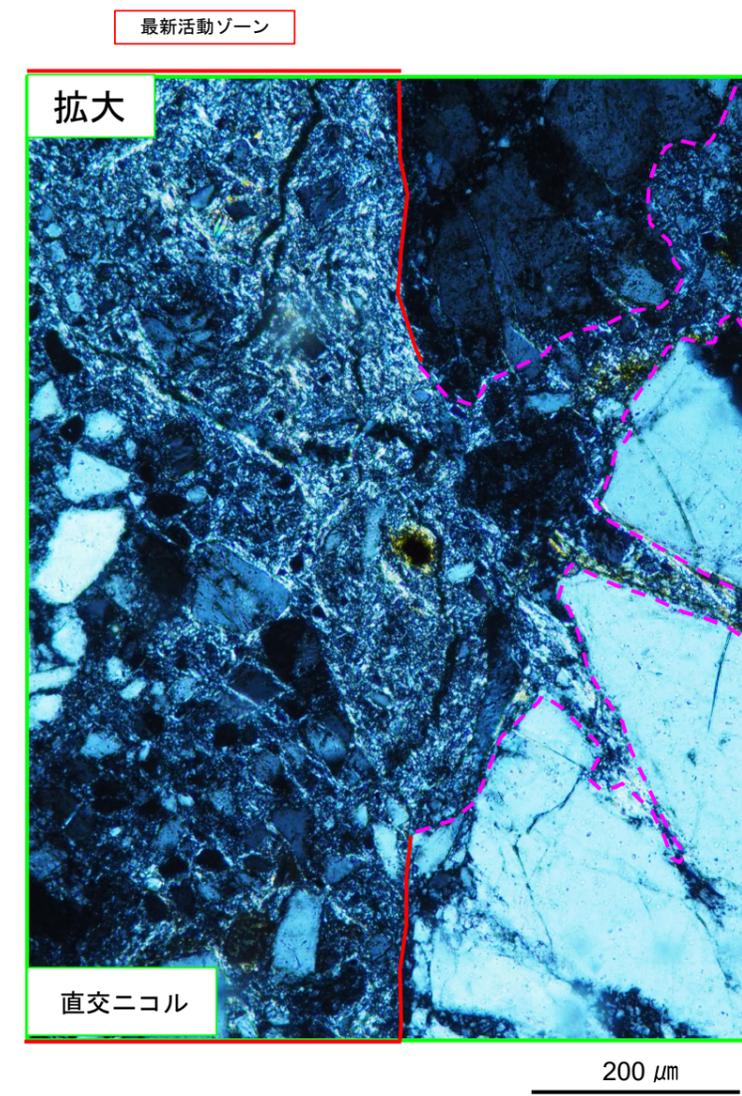
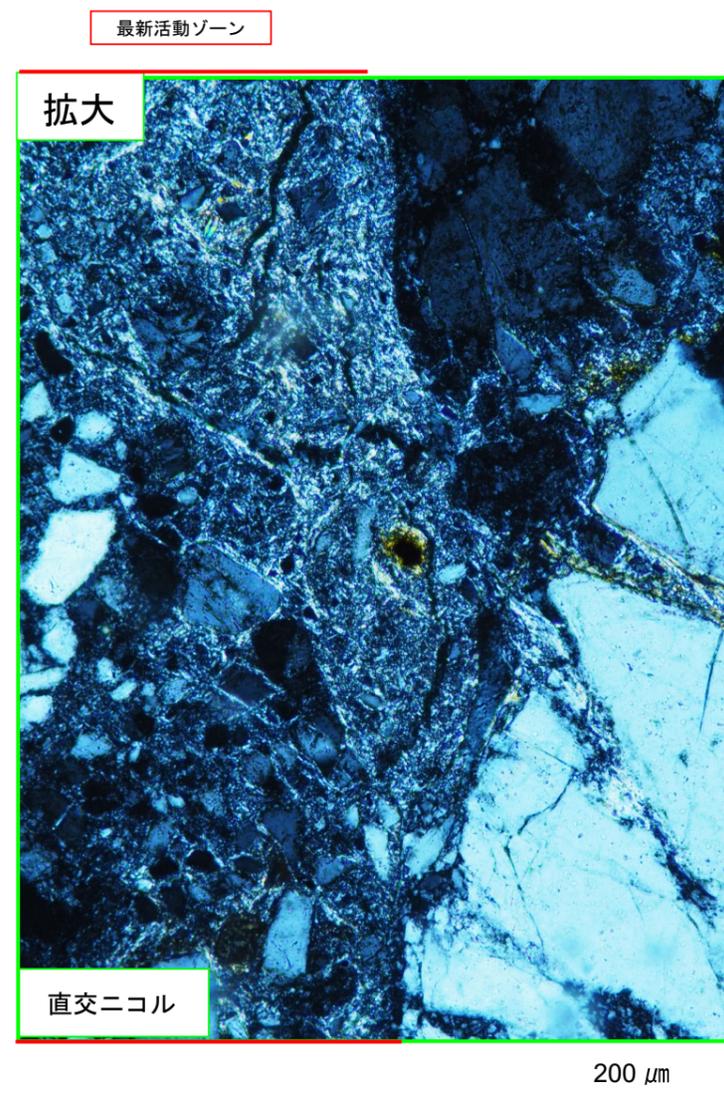
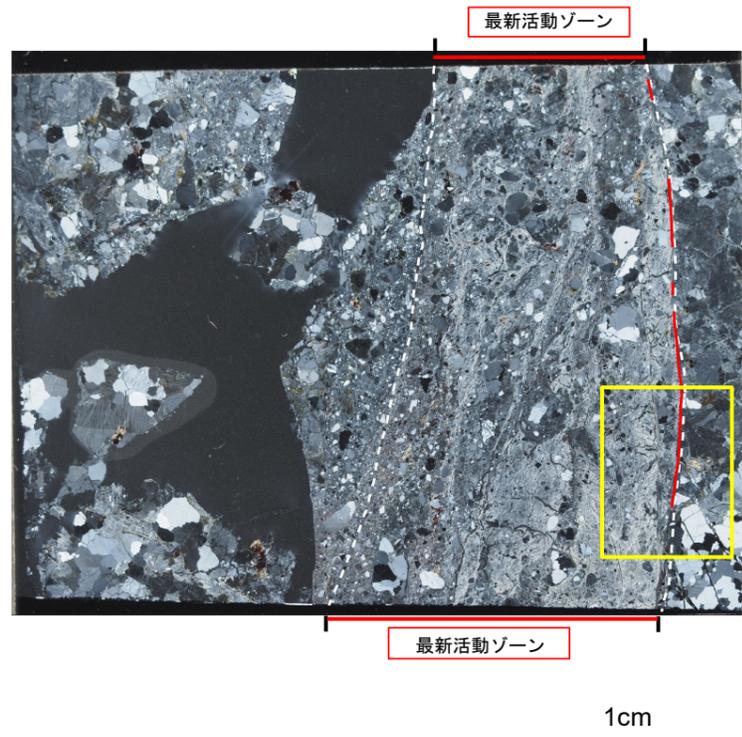


- ・図1の範囲において、最新活動面(Y面A)付近では粘土鉱物が分布し、最新活動面を不明瞭かつ不連続にし、横断している。不連続箇所ではせん断面や引きずりなどの変形構造、弓状構造や粒子の配列などの注入の痕跡は認められない。
- ・上記のことから、最新活動後に最新活動面に沿って熱水が浸透し、最新活動面を不明瞭かつ不連続にし、横断していると考えられる。



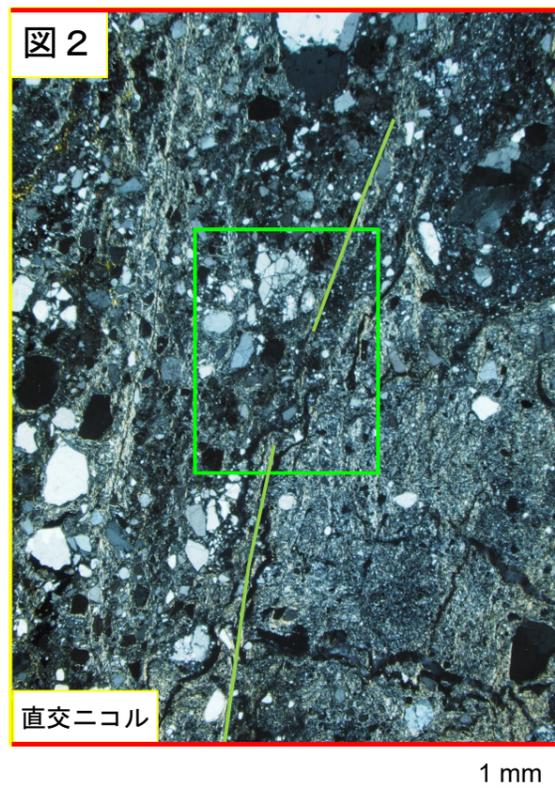
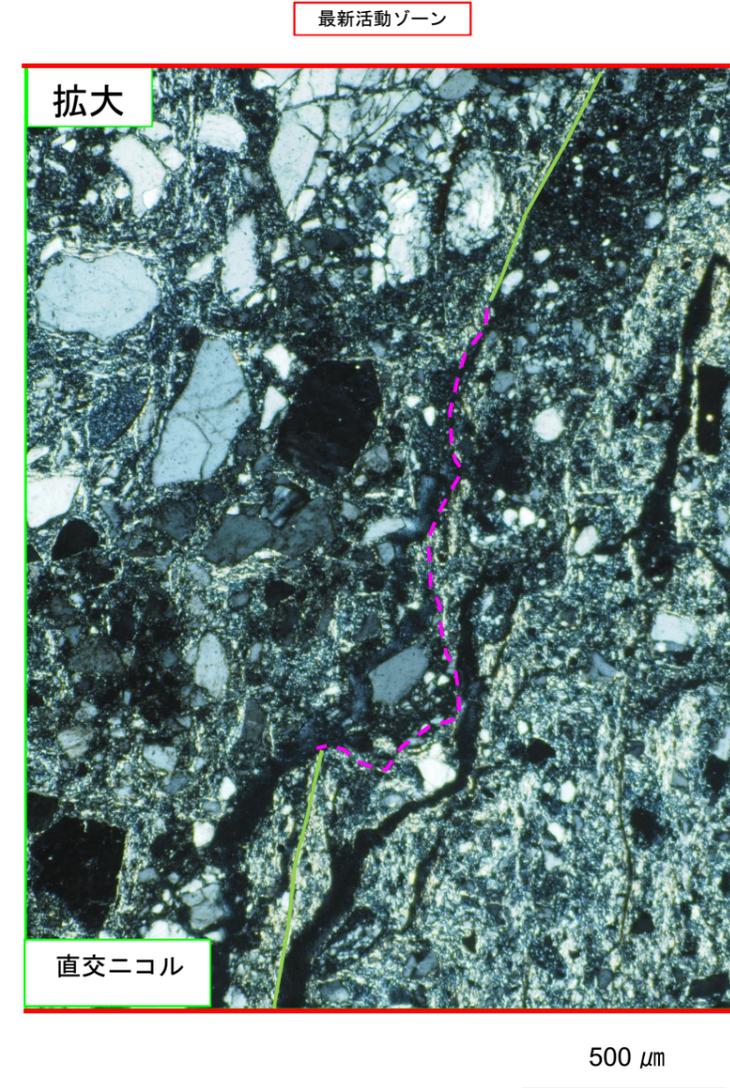
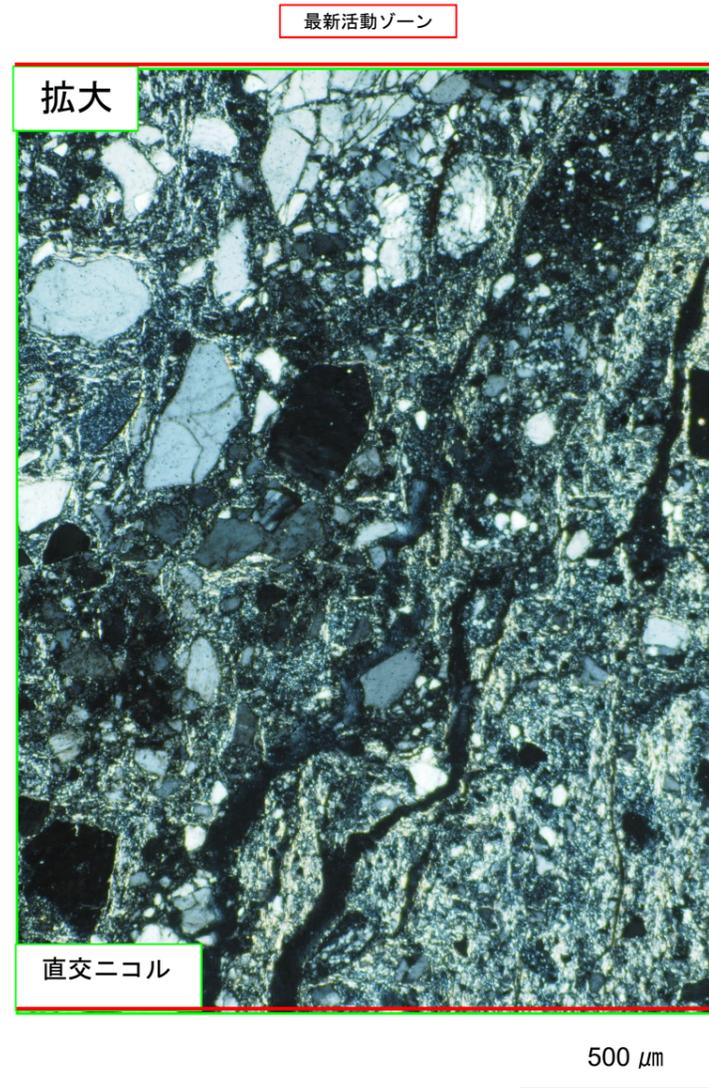
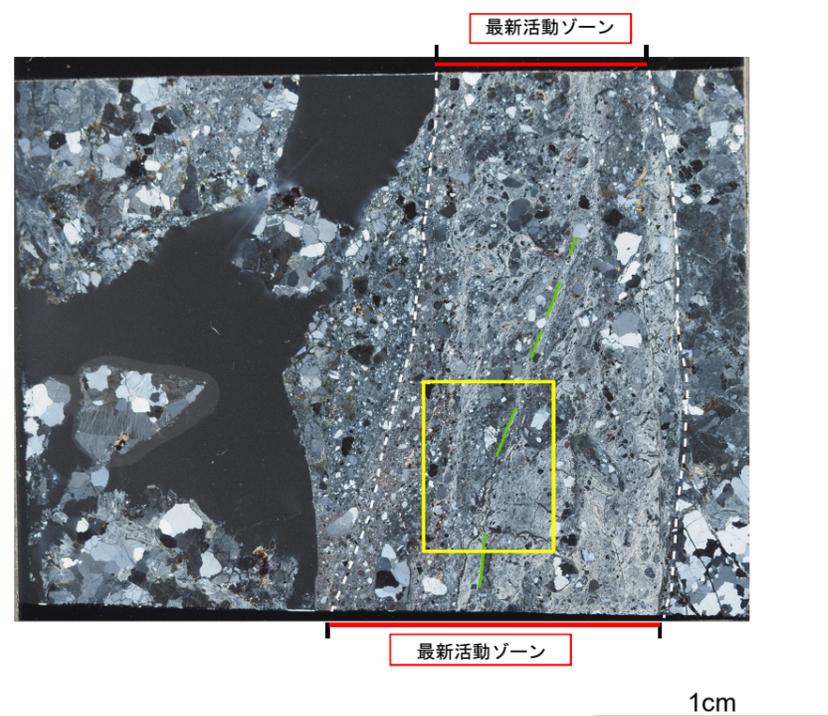
凡例
 — 最新活動面

※写真上下の赤線は最新活動ゾーンを示す

※桃色破線部は粘土鉱物優勢な細粒部の分布を示す

最新活動後に熱水変質作用を受け、それ以降破砕部は活動していないと判断される。

- ・図2の範囲において、最新活動面の候補の面付近では粘土鉱物が分布し、最新活動面の候補の面を不明瞭かつ不連続にしている。不連続箇所ではせん断面や引きずりなどの変形構造、弓状構造や粒子の配列などの注入の痕跡は認められない。
- ・上記のことから、活動後に最新活動面の候補の面に沿って熱水が浸透し、面を不明瞭かつ不連続にしていると考えられる。



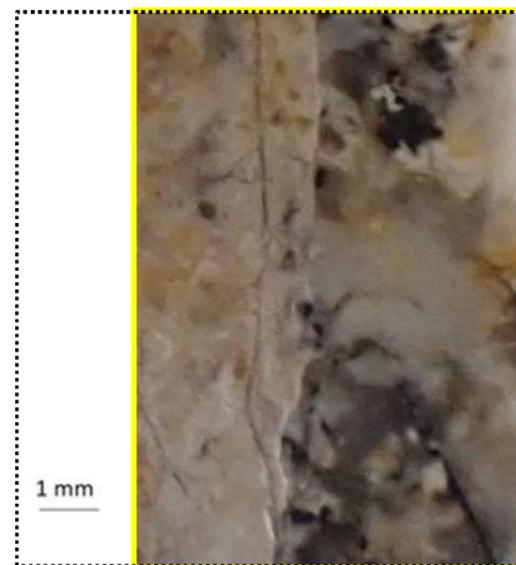
凡例
 最新活動面

※写真上下の赤線は最新活動ゾーンを示す

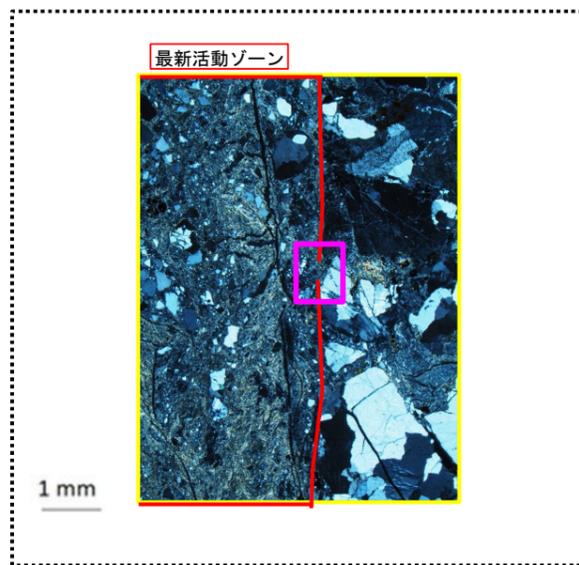
※桃色破線部は粘土鉱物優勢な細粒部の分布を示す

活動後に熱水変質作用を受け、それ以降破砕部は活動していないと判断される。

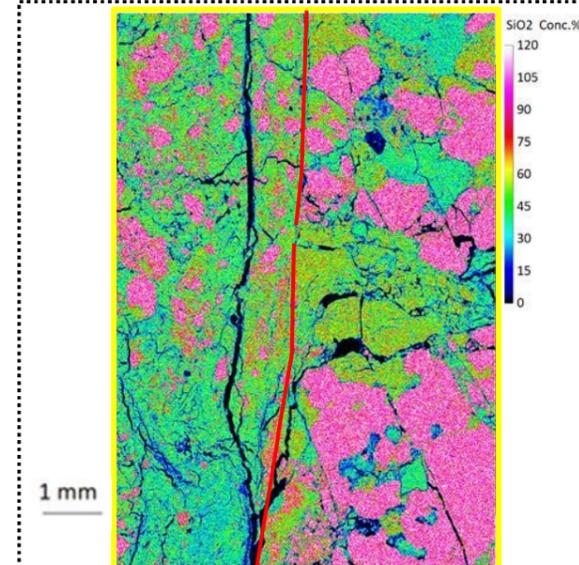
- ・最新活動面及び最新活動面の候補の面を不明瞭かつ不連続にしている粘土鉱物について、薄片を作成したチップを用いて、EPMA分析を行った。
- ・破碎部のEPMAマッピングにより、最新活動ゾーンと最新活動面及び最新活動面の候補の面を不明瞭かつ不連続にしている粘土鉱物の主成分組成を比較する。



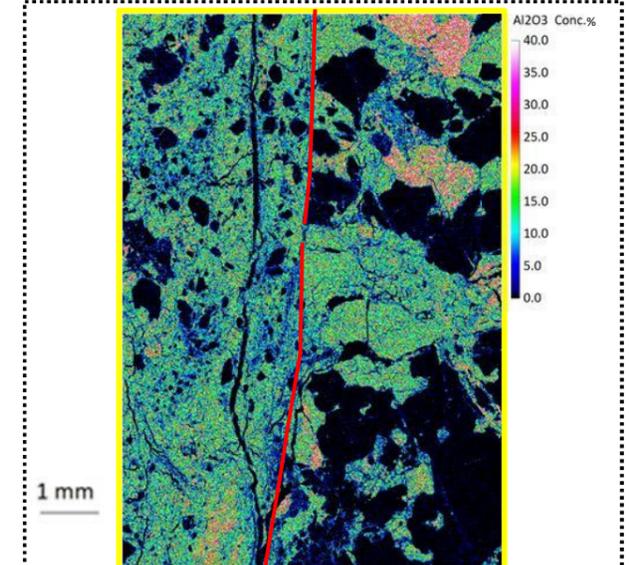
薄片チップの位置



薄片写真(直交ニコル)

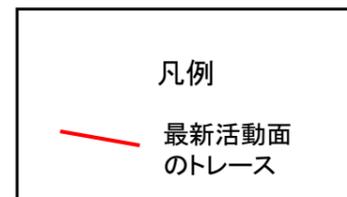


EPMAマッピング(SiO_2)

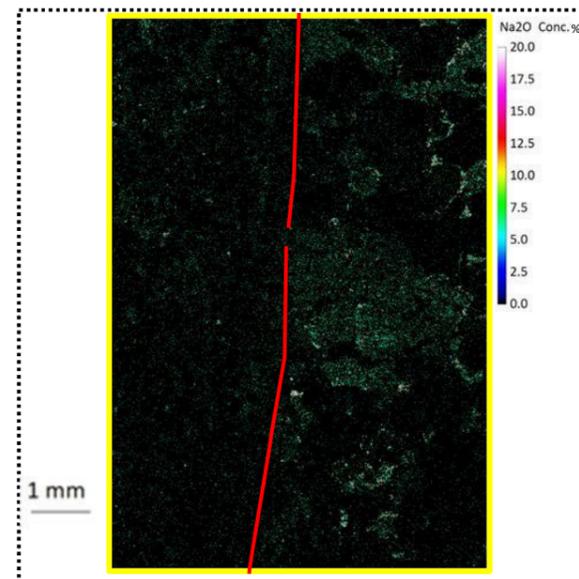


EPMAマッピング(Al_2O_3)

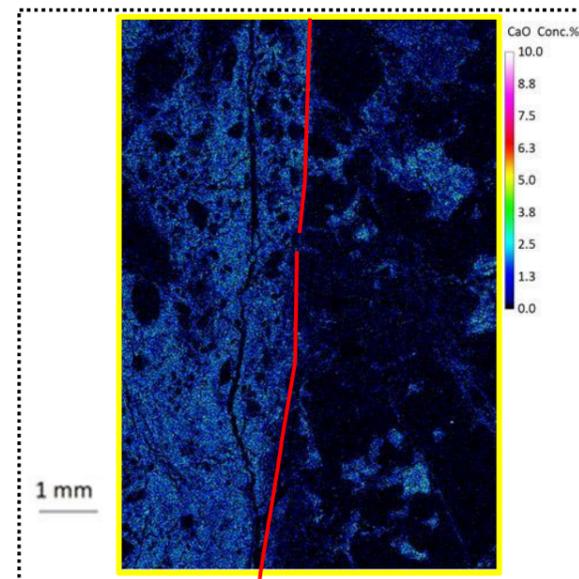
※EPMAは薄片ではなくチップで実施。



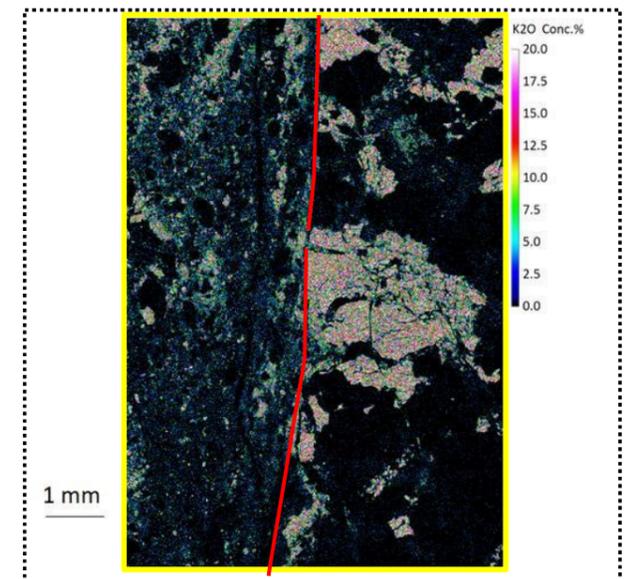
拡大範囲



EPMAマッピング(Na_2O)



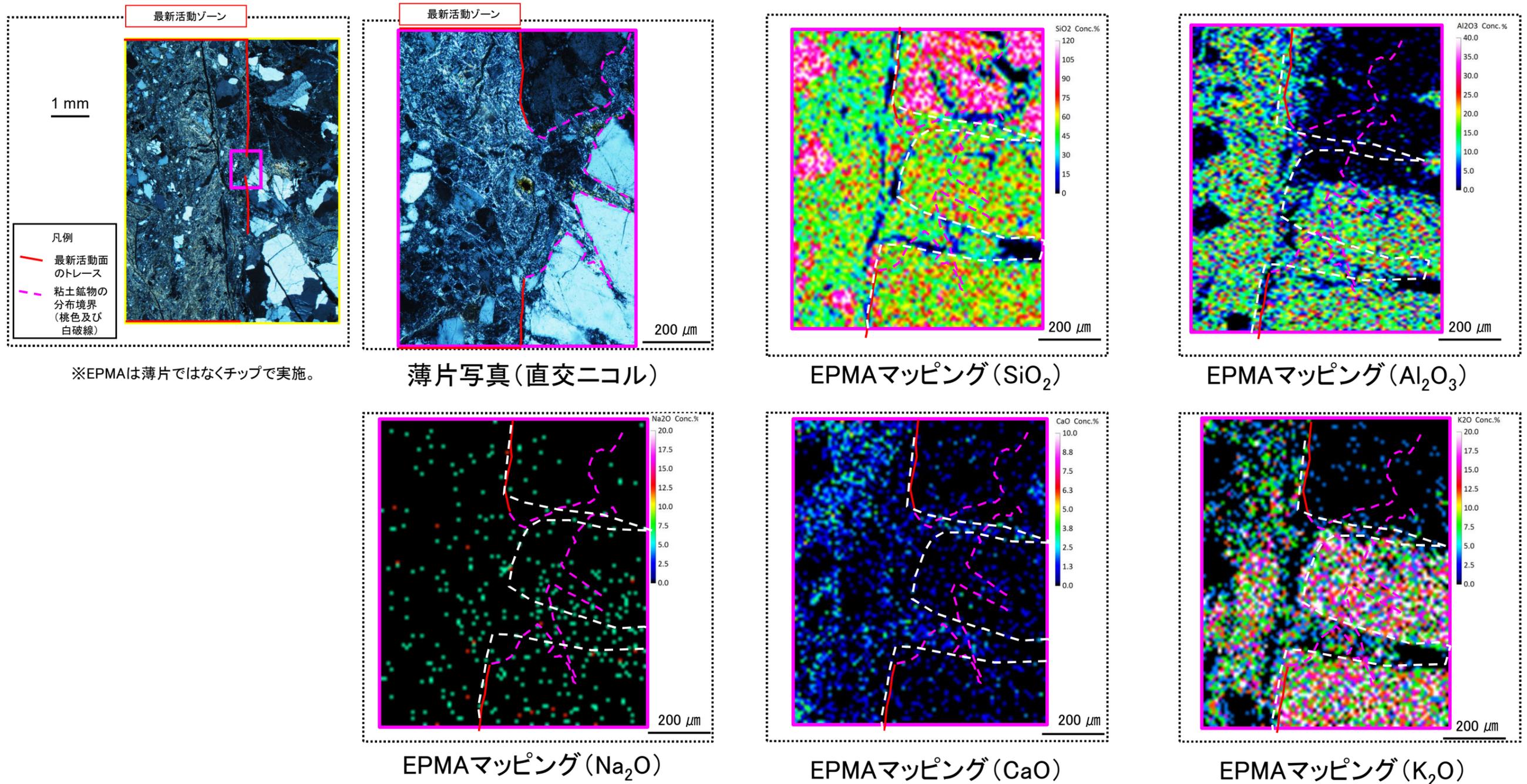
EPMAマッピング(CaO)



EPMAマッピング(K_2O)

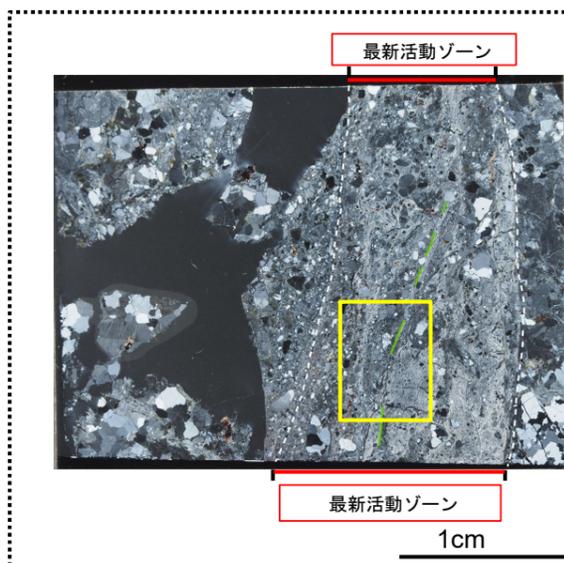
- ・最新活動ゾーンの下側については基質の Al_2O_3 が少なく、 CaO が多いゾーンが認められるが、上側については SiO_2 、 Al_2O_3 の組成差が少なく CaO の多いゾーンも最新活動面を横断して分布している。

- ・最新活動面を不明瞭かつ不連続にしている粘土鉱物について、薄片を作成したチップを用いて、EPMA分析を行った。
- ・破砕部のEPMAマッピングにより、最新活動ゾーンと最新活動面を不明瞭かつ不連続にしている粘土鉱物の主成分組成を比較する。

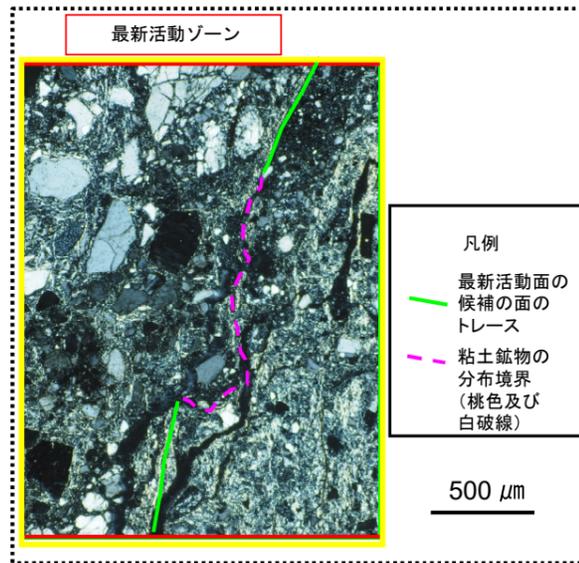


- ・最新活動ゾーンの周囲はおおむね均質で、最新活動面を挟んで元素の明瞭な差は見られない。
- ・薄片観察でみられた最新活動面と粘土鉱物の関係(図中の桃色破線)は、元素の分布からは確認できない。
- ・ SiO_2 が少なく、 CaO が多く、 K_2O が少ない脈状のゾーンが最新活動面を横断している状況(図中の白破線)が認められる。

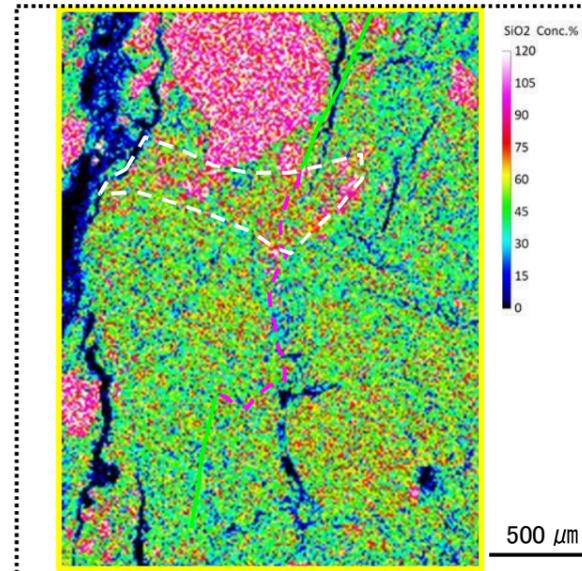
- ・最新活動面の候補の面を不明瞭かつ不連続にしている粘土鉱物について、薄片を作成したチップを用いて、EPMA分析を行った。
- ・破碎部のEPMAマッピングにより、最新活動ゾーンと最新活動面の候補の面を不明瞭かつ不連続にしている粘土鉱物の主成分組成を比較する。



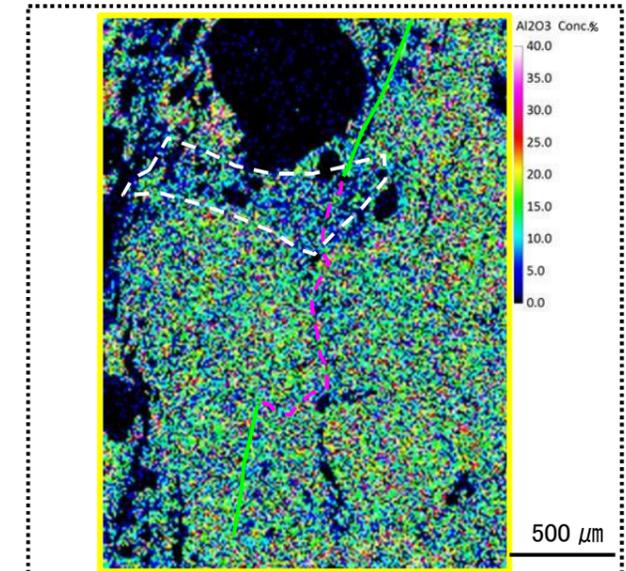
※EPMAは薄片ではなくチップで実施。



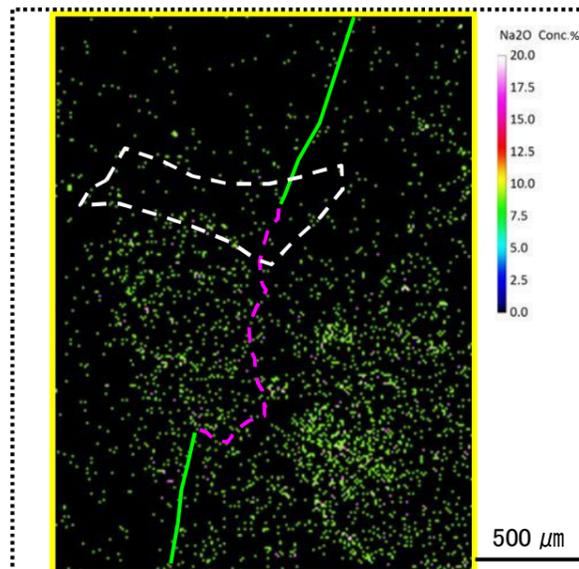
薄片写真(直交ニコル)



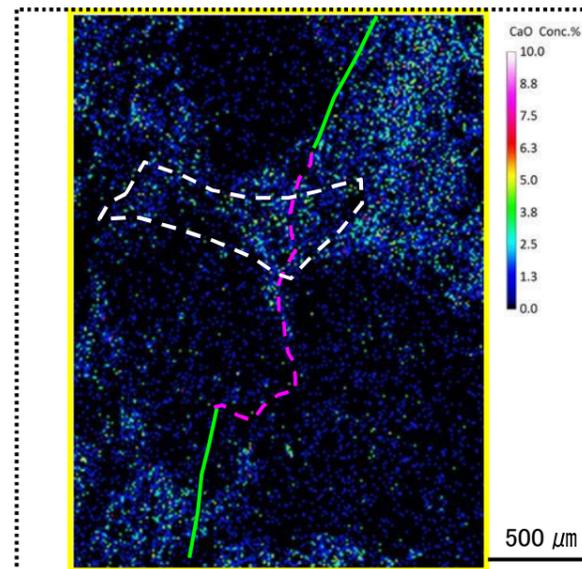
EPMAマッピング(SiO₂)



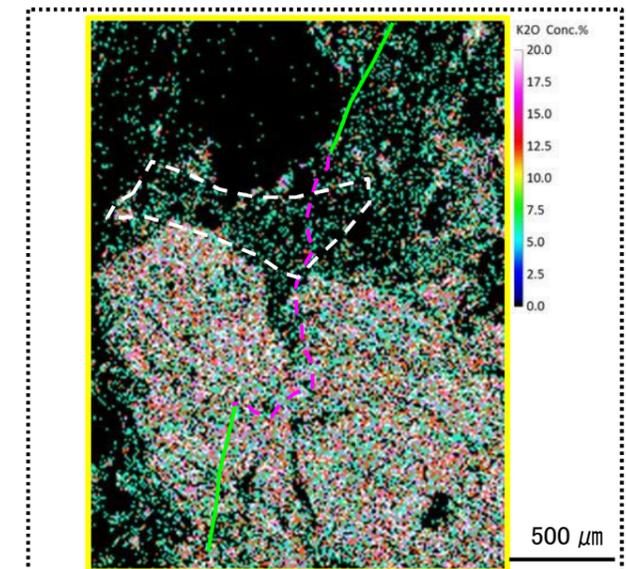
EPMAマッピング(Al₂O₃)



EPMAマッピング(Na₂O)



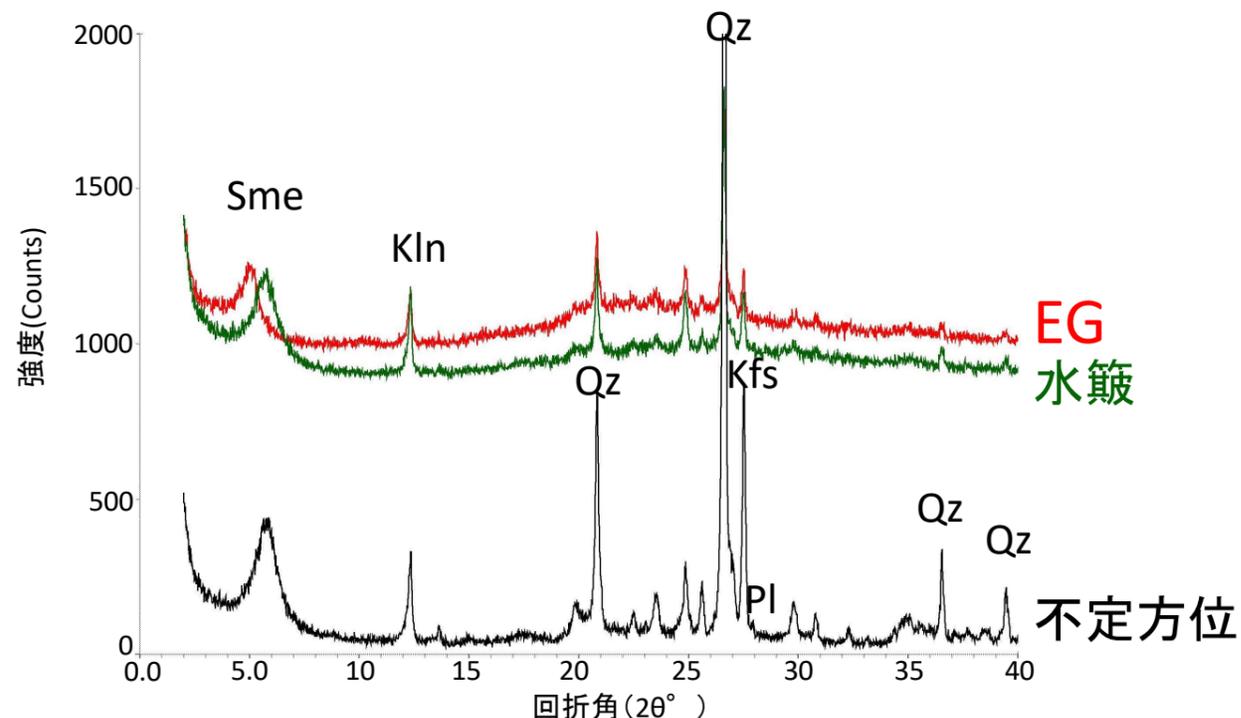
EPMAマッピング(CaO)



EPMAマッピング(K₂O)

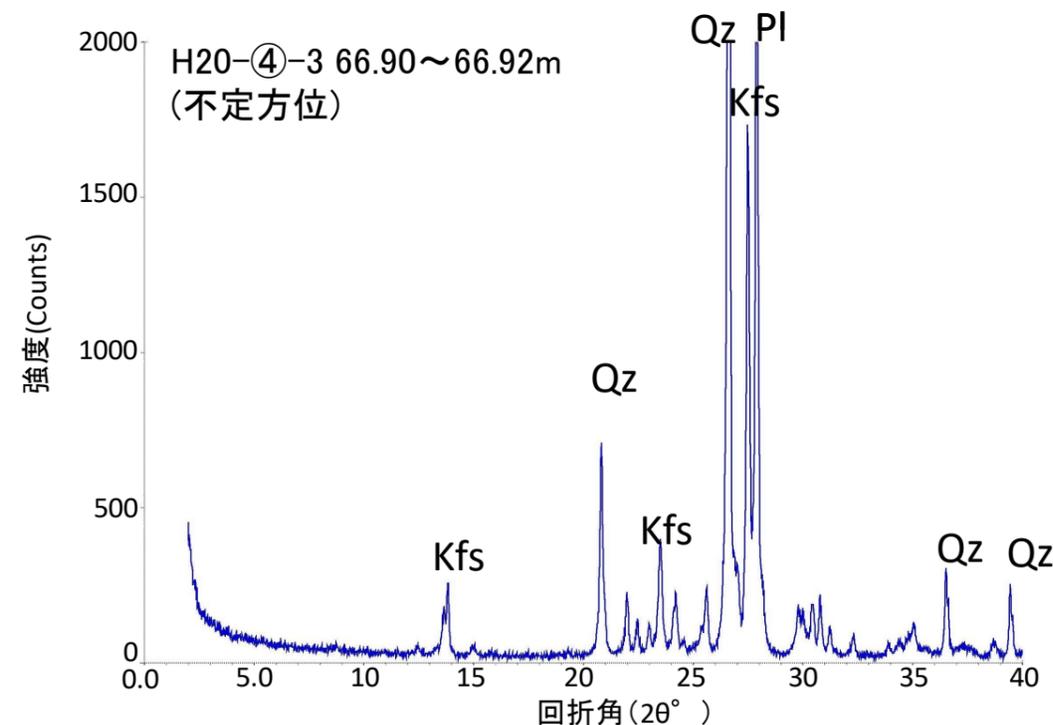
- ・最新活動ゾーンの周囲はおおむね均質で、最新活動面の候補の面を挟んで元素の明瞭な差は見られない。
- ・薄片観察でみられた最新活動面の候補の面と粘土鉱物の関係(図中の桃色破線)は、元素の分布からは確認できない。
- ・SiO₂が多く、Al₂O₃が少ない脈状のゾーンが最新活動面を横断している状況(図中の白破線)が認められる。

- H24-D1-1孔 深度60.15mを最新活動面とする破碎部(D-1破碎帯)の断層ガウジから採取した試料と新鮮な花崗斑岩の鉱物組成を比較した。
- H24-D1-1孔 深度60.15mの破碎部は新鮮な花崗斑岩に比べ斜長石やカリ長石の割合が小さくなっている。一方、スメクタイトとカオリナイトが認められる。
- 井上(2003)⁽¹⁷⁷⁾によれば、H24-D1-1孔 深度60.15mは熱水変質作用を受けていると推定される。



H24-D1-1孔 60.15m(D-1破碎帯)のチャート

水簸及びEG処理を施した試料の回折パターンは見やすくするため不定方位の回折パターンの上方にずらして表示した。



新鮮な花崗斑岩のチャート

X線粉末回折結果(基本は不定方位分析の回折強度を使用)

試料採取位置		スメクタイト	雲母粘土鉱物	カオリナイト	緑泥石	石英	斜長石	カリ長石
花崗斑岩 新鮮部	H20-④-3 66.90~66.92m		((・))		((・))	◎	◎	◎
破碎部 断層ガウジ	H24-D1-1 60.15m	△		△		◎	(・)	○

記号凡例	
Sme	: スメクタイト
Kln	: カオリナイト
Qz	: 石英
Pl	: 斜長石
Kfs	: カリ長石

凡例 ◎:多量 ○:中量 △:少量 ・:微量 (・):極微量 ((・)):極微量で、定方位測定時のみピークを確認

■柱状図で用いている記号の凡例を以下に示す。

・岩級区分

割れ目の状態	コア形状	硬軟				
		A _g	B _g	C _g	D _g	E _g
a _g	I _g	B'	-	-	-	-
	II _g	B'	C _H '	-	-	-
	III _g	-	C _H '	-	-	-
	IV _g	-	-	-	-	-
	V _g	-	-	-	-	-
	VI _g	-	-	-	-	-
b _g	I _g	B'	B'	C _M '	C _L '	-
	II _g	C _H '	C _H '	C _M '	C _L '	-
	III _g	C _H '	C _H '	C _M '	C _L '	-
	IV _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	-
	V _g	-	C _L '	C _L '	C _L '	-
	VI _g	-	-	-	-	-
c _g	I _g	-	C _H '	C _M '	C _L '	D'
	II _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	D'
	III _g	-	C _M '	C _M '	C _L '	D'
	IV _g	-	C _M '	C _L '	C _L '	D'
	V _g	-	C _L '	C _L '	C _L '	D'
	VI _g	-	-	-	D'	D'
d _g	I _g	-	-	-	-	-
	II _g	-	-	-	-	-
	III _g	-	-	-	-	-
	IV _g	-	-	-	-	-
	V _g	-	-	-	-	-
	VI _g	-	-	-	D'	D'

・硬軟

A _g	極めて硬質。ハンマーで澄んだ金属音がする。
B _g	硬質。ハンマーで金属音がする。
C _g	中硬質。ハンマーで多少濁った音がする。
D _g	軟質。ハンマーで濁音がする。
E _g	極めて軟質。ハンマーで著しく濁った音がする。

・コア形状

I _g	50cm以上の長柱状
II _g	20cm以上50cm未満の長柱状
III _g	10cm以上20cm未満の柱状
IV _g	3cm以上10cm未満の岩片状～短柱状
V _g	1cm以上3cm未満の岩片状
VI _g	1cm未満の土砂状

・割れ目の状態

a _g	密着, 新鮮
b _g	酸化鉄付着
c _g	細粒物質を挟む。
d _g	割れ目として認識できない。

・風化

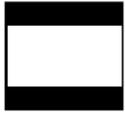
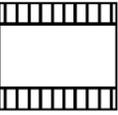
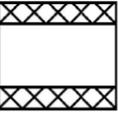
α	非常に新鮮である。造岩鉱物の変質はまったくない。
β	新鮮である。有色鉱物の周辺に赤褐色化がある。長石の変質はない。
γ	弱風化している。有色鉱物の酸化汚染がある。長石の部分的な変質(白色化)がある。
δ	風化している。有色鉱物が黄金色あるいは周辺が褐色粘土化している。長石の大部分が変質している。
ε	強風化している。石英および一部の長石を除きほとんど変質し原岩組織は失われている。

・変質

1	非変質	肉眼的に変質鉱物の存在が認められないもの。
2	弱変質	原岩組織を完全に残し、変質程度(脱色)が低いもの。あるいは非変質部の割合が高いもの(肉眼で50%以上)。
3	中変質	肉眼で変質が進んでいると判定できるが、原岩組織を明らかに残し、原岩判定が容易なもの。または、非変質部を残すものおよび網状変質部。
4	強変質	構成鉱物、岩片等が変質鉱物で完全置換され、原岩組織を全く殆ど残さないもの。

第7.4.4.220図 ボーリング調査 コア柱状図の凡例 (岩級区分等)

・破砕度区分

区分	模様	詳細
Hc-1		粘土状部。 粘土及びシルトを主体とし、少量の砂及び礫を伴う。粘土化が進み全体に軟質化している。
Hc-2		礫混じり粘土状部。 粘土及びシルトの基質中に礫状ないしレンズ状の岩片を含む。基質及び礫は粘土化が進み軟質化している。
Hb		礫質粘土状部、粘土質礫状部、礫質砂状部。 礫を多く含み、基質は粘土、シルト及び砂からなる。基質は粘土化が進み軟質化しているが、礫は比較的新鮮で硬い。
Hj		粘土混じり礫状部、粘土混じり岩片状部、粘土質岩片状部、砂混じり岩片状部。 粘土及びシルトを挟む割れ目が発達し、全体に脆い。岩片は比較的新鮮で硬いものから、やや粘土化が進み指圧で砂状化するものまである。網目状の粘土細脈が発達することがある。

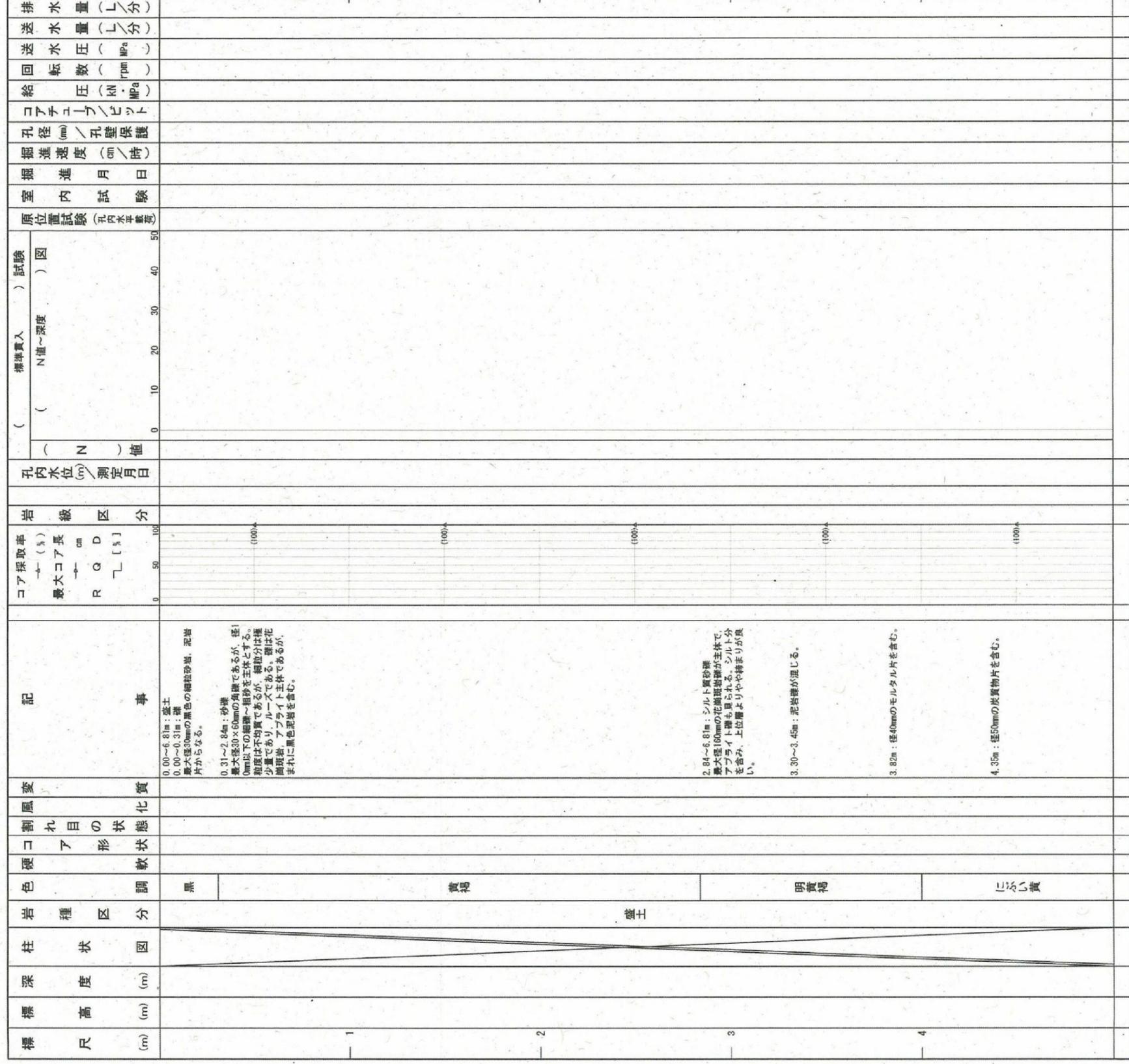
第7.4.4.221図 ボーリング調査 コア柱状図の凡例 (破砕度区分)

ボーリング柱状図

調査名	ボーリングNo.																
-----	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

ボーリング名	H24-D1-2	調査位置	X:277.490, Y:897.401	北緯	35° 45' 12.77"
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	2013年 3月16日 ~ 2013年 4月4日	東経	136° 1' 4.38"
調査業者名		現代理人		ボーリング責任者	
孔口標高	6.95 m	主任技師		コ 鑑 定 者	
総掘削長	33.00 m	方 向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	ハンマニ 落下用具	
		角 度	水平 0° 鉛直 90°	ポンプ	



第7.4.4.222図 (1) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-2孔)

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	変 質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値 (N 値 ~ 深度) 図	原 位 置 試 験 (孔内水平載重)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm / 時)	孔 徑 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー プ / ビ ッ ト	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)	
6	1.05	6.81		盛土	にぶい黄																					
7				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	VE	VE	VE	VE	VE	VE														
8				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	VE	VE	VE	VE	VE															
9				花崗斑岩	にぶい橙	Dg	VE	VE	VE	VE	VE															

第7.4.4.222図 (2) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	ア形状		割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 → (%) ← 最大コア長 → R Q D ← om → L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験		室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
							(N) 値	(N値～深度) 図																									
11				花崗斑岩	にふい煙	Eg	IVe	cg	2		10.21m: 傾斜45°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。石英脈が横断する石英斑岩は石英脈を挟んでスレしていない。石英脈の周辺部には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 10.58~11.53m: 傾斜50~55°の割れ目が10~30mm間隔でほぼ平行に分布する。10.58~10.92mは風化で褐色化が強いが、劣化は伴わない。いずれも直線的でシャープな割れ目岩質部である。一部、割れ目が石英斑岩を横断しているが、石英にスレは認められない。割れ目には存在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	8 [10]	dl'																				
12				花崗斑岩	にふい煙	Eg	IVe	cg	3		11.53~11.67m: 全体が粘土化し、著しく軟質化するが、せん断面は分布しない。 11.67~11.95m: 傾斜10°と40°の割れ目が細かく分布し、径20~30mmに岩片化する。 11.95~12.13m: 割れ目沿いに幅1mmの軟質な灰白色粘土脈が多くなり、全体に軟質化が著しい。	4 [10]	dl'																				
13				花崗斑岩	にふい煙	Eg	IVe	cg	3		12.38~12.86m: 破砕部 (0-1断層 (HJ))。上端45°、下端45°でともに直線的でシャープに連続。割れ目は殆んど消滅し、著しく軟質化した径10~30mmの岩片からなる。岩片間に20~70°で幅0.5~1mmの軟質な灰白~灰黄色粘土脈が分布する。全体ににふい褐色を呈する。 12.86~12.97m: 粘土状部 (Hc=1) 傾斜45°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を少量含む。やや硬質。灰白~灰黄色を呈する。幅5mm。 12.97~12.97m: 粘土混じり破砕部 (HJ) 上端45°で直線的にシャープに、下端45°で不明瞭に連続。硬質。径5~20mmの岩片主体で、岩片間に幅0.5~1mmの粘土脈を少量含む。にふい黄褐色を呈する。幅75mm。 12.97~16.24m: 上位に比べ割れ目は少ない。割れ目沿いに風化が薄み砂状化を呈する部分を含む。粘土脈の分布は少ない。傾斜40~60°の割れ目が主体である。 13.15~13.46m: 傾斜10~20°の割れ目が多く、割れ目沿いは風化で砂状化~小岩片化し、一部でマンガン鉱染を受ける。 13.73~13.77m: 傾斜55~65°の割れ目が2~10mm間隔で平行に直線的にシャープに分布する。粘土化はないが、全体に軟質化する。幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。 13.82~13.89m: 不規則な形状で褐色化する。 14.20m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 14.32m: 傾斜45°の割れ目沿いに幅5~10mmが緑色化するが、粘土化などの劣化は伴わない。 14.87m・60°の割れ目は交差する80°の割れ目を止めており、14.97m・62°の割れ目は石英斑岩を横断する。両者ともスレは認められない。割れ目には存在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	3 [10]	dl'																				
14				花崗斑岩	にふい煙	Dg	IVe	cg	2		14.97~15.00m: 傾斜45°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。石英脈が横断する石英斑岩は石英脈を挟んでスレしていない。石英脈の周辺部には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	9 [10]	dl'																				

第7.4.4.222図 (3) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
														(N) 値	(N値~深度) 図	(N) 値	(N) 値	(N) 値																					
16			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	IVe	cg	2		<p>15.10m・65°の割れ目は長石斑晶を横断し、15.28m・55°の割れ目は石英斑晶を横断する。両者ともスレは認められない。また、これらの割れ目も横断する割れ目が見られる。両者とも挟在物は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>15.47m以深では、割れ目沿いに幅1~2mmで風化により褐色化する。</p>	7 10	dl'																										
17			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Eg	Ve	dg	3		<p>16.12m：傾斜60°の割れ目沿いに微小な歪曲帯物が露出する。</p> <p>16.24~17.66m：コア全体が著しく軟質化するが、17.46m以深では原岩組織と割れ目は残留する。割れ目の一部は、マンガン鉱染を受け、黒褐色化する。</p> <p>16.54m：傾斜50°の割れ目と交差する割れ目は止まっている。割れ目には挟在物は見られないが、幅1mm程度が風化で褐色に砂状化する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p>	12 [12]	D'																										
18			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	IVe	cg	2		<p>17.05~17.30m：径5~10mmの大型化した長石斑晶が多い。長石は全て粘土化で白濁化する。</p> <p>17.46~17.66m：径10~20mm前後に細片化する。</p> <p>17.66~19.78m：上位に比べて割れ目が少なくなり、傾斜30~60°の割れ目を主体とする。割れ目の一部は薄く砂状化したり、粘土脈を挟むものがある。</p> <p>18.10m：傾斜40°の割れ目に幅1~2mmのマングンを挟む。</p> <p>18.21m：傾斜58°の割れ目沿いに幅1~2mmが風化で褐色し砂状を呈する。割れ目周辺に微細な白雲母が露出する。</p> <p>18.41m：傾斜50°で幅1mmの白色粘土を挟む。</p>	19 [19]	dl'																										
19			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Ve	dg	4		<p>18.77m：傾斜55°の割れ目は幅2mmの連続性に乏しい軟質な灰褐色粘土を挟む。この割れ目で止まっている割れ目と横断する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>18.97m：傾斜58°の割れ目沿いがマングン鉱染で黒褐色化する。</p> <p>19.01~19.21m：風化残留部でやや硬質である。</p> <p>19.23m及び19.30mの傾斜62°の割れ目沿いは幅2~15mmで砂状~細片状化する。若干の粘土も含む。この間、マンガン汚染により黒色化している。</p> <p>19.57~19.61m：傾斜50°、幅2.5mm程度で軟質化する。下端側は幅10mmでマンガン汚染が顕著に見られる。</p> <p>●19.78~19.87m：破砕部 粘土掘り残状部 (HJ) 上端63°、下端63°、ともに連続的にシヤープに連続する。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。やや硬質。浅褐色を呈する。幅10~50mmと膨縮する。</p> <p>19.82mに幅1mm以下の灰白色粘土を連続的に挟在する。</p> <p>19.87~20.59m：傾斜60°の割れ目がほぼ平行に分布し、一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。</p>	20 [20]	dl'																										

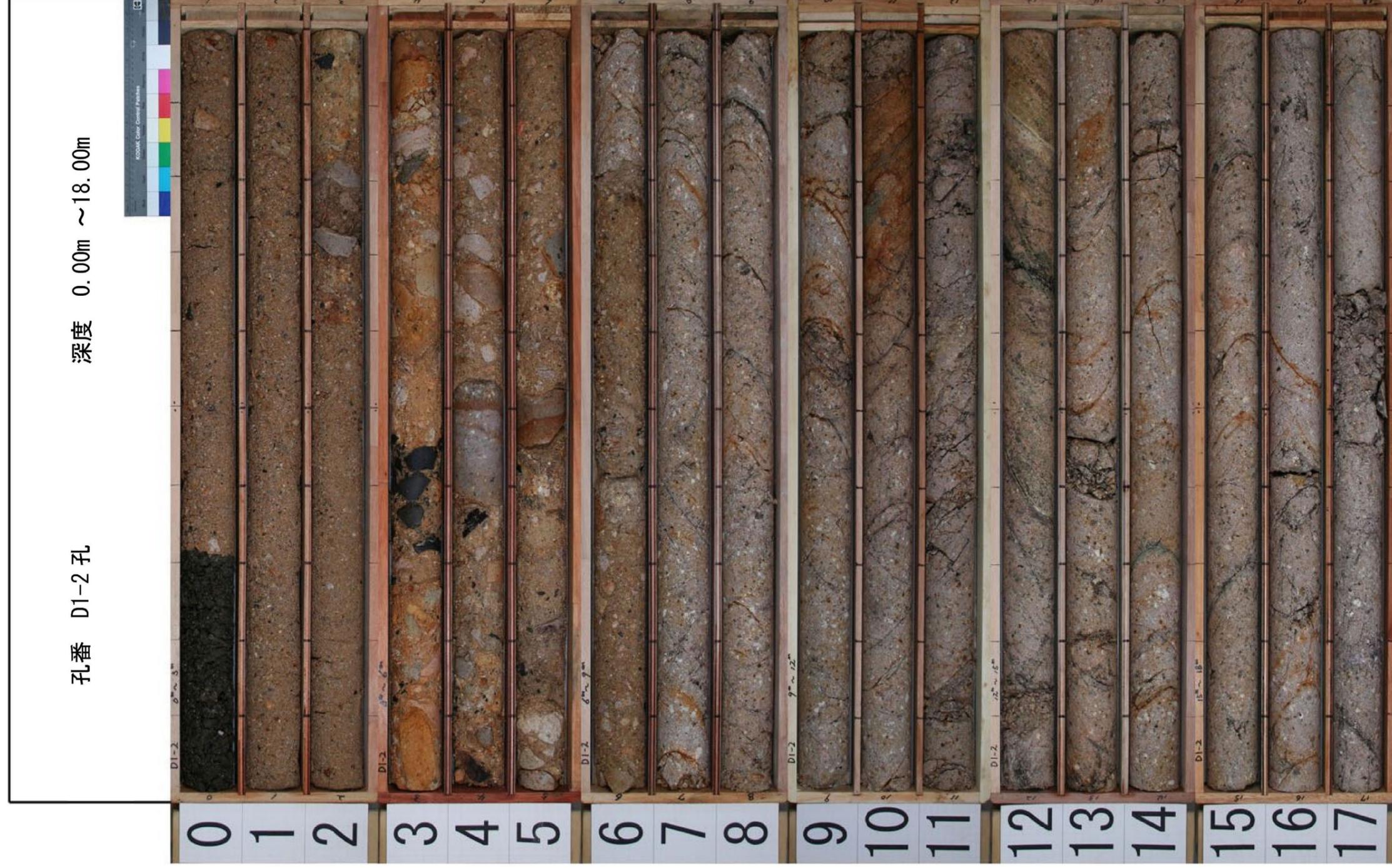
第7.4.4.222図 (4) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) → 長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位試験 孔内水平載荷	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)										
21				花崗斑岩		Dg IVg IIIg IVg IIIg IVg Cg	IVg IIIg IVg IIIg IVg Cg	cg cg cg cg cg cg	δ	2	20.59~21.50m: 直上位と同様、傾斜60°の割れ目が分布するが、直上位よりもやや硬質である。 20.74~20.77m: 傾斜30°で幅30mmの斑晶のない微晶質部が分布し、上下端は密着する。上端側には径10mmの大型のかり黒石の斑晶が分布する。 20.90m: 傾斜65°の割れ目沿いに微細な白雲母が露出する。粘土脈は伴わない。周囲はわずかに緑色化する。 21.05~21.30m: 傾斜80~90°のマンガン鉱を伴う低密着割れ目が2~3本分布する。 21.42m以深は斑晶が少ないアブライト様を呈する。 21.50~23.18m: 上位より割れ目がやや多くなるが、やや硬質である。割れ目は特定方向のものには分布しないが、一部は割れ目沿いに軟質化する。マンガン鉱を伴う割れ目が多い。 21.50~21.55m: 局所的に粘土化し、所産色粘土が細目状に分布する。一部でマンガンを伴う。上端の傾斜50°の割れ目には幅2~3mmの軟質な黄褐色粘土脈を挟む。 21.89m・15° ~ 22.10m・50° の割れ目で囲まれた部分は粘土化し、劣化する。 22.10~22.39m: アブライトを挟む。上端60°、下端20°で花崗斑岩との境界は明確である。 22.17m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。 22.21m・50° 及び22.89m・85° の割れ目は、交差する割れ目を止めていく。割れ目には採取物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 22.32m: 傾斜20°で幅20mmのかり長石遷移部が母岩に密着して分布する。 23.18~24.04m: やや硬質で、傾斜40~60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。一部に幅1~2mmの軟質な白~灰黄色粘土脈を挟む。 23.68m及び23.72m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 23.88m: 傾斜73°で幅4~5mmのかり長石と石英の遷移部が脈状に分布して分布する。 24.04~25.22m: 上位よりやや軟質化し、割れ目の一部は細片化する。傾斜20~60°の割れ目が主体である。割れ目に白色粘土やマンガンを挟むことが多い。 24.04m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅5~10mmが緑色化する。 24.57~24.60m: 傾斜60°の割れ目沿いにマンガンの汚染が顕著に見られる。 24.80~24.82m: 傾斜60°で幅15mmが白色粘土化し、やや軟質化する。下端側は緑色化が見られる。	0 50 100																										
22				アブライト		Eg Vg dg Vg cg cg IVg Vg Dg Cg	Vg cg cg IVg Vg Dg Cg	cg cg cg cg cg cg cg		3																												
23				花崗斑岩		Vg IVg IIIg Cg Dg Vg IVg Cg	Vg cg cg IVg Vg Dg Cg	cg cg cg cg cg cg cg		2																												
24				花崗斑岩		IIIg IVg Vg Dg Cg	IIIg IVg Vg Dg Cg	cg cg cg cg cg																														

第7.4.4.222図 (5) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験図	原位置試験 (孔内水位変動)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
26			+++++	花崗斑岩		Dg Vg	Dg Vg	IIIg			25.22~26.84m:一部の割れ目では、割れ目沿いに薄く軟質化するが、概ねやや硬質で割れ目は少ない。一部の割れ目には、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟む。	18	18	CL'																				
27			+++++	花崗斑岩		Cg Vg	Cg Vg	IIIg			26.67m:傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている場合と推断する可能性がある。幅1mmの連続性に乏しい軟質な白色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、糸紡的な割れ目も存在しない。 26.84~28.73m:互いに交差する傾斜40~60°の割れ目が主体である。上位に比べて割れ目が多い。割れ目の面は弱く風化する。やや硬質~やや軟質である。 27.30~27.32m:上下端60°の割れ目に幅0.5~1mmの軟質な淡黄色粘土を挟み、全体に粘土化が進む。	13	13	CL'																				
28			+++++	花崗斑岩		Dg Vg	Dg Vg	IIIg			28.42~28.46m:上端65°、下端55°の割れ目に囲まれて径5mm前後に細片化化する。下端には幅2mmの風化で褐色化した軟質な粘土脈を伴い、幅5mm前後の淡緑色化が見られる。割れ目沿いに白雲母が晶出する。 28.73~30.20m:やや硬質で、傾斜40~60°の割れ目が主体であるが、割れ目は少ない。風化は弱く、割れ目の面がごく薄く褐色化する程度で、砂状部は29.05mの傾斜60°の割れ目に幅2mmで分布するのみである。緑色化が見られる。粘土脈や粘土化部は分布しない。	8	8	CL'																				
29			+++++	花崗斑岩		Cg Vg	Cg Vg	IIIg			29.32~29.33m:傾斜30°、幅10~12mmで径2~5mmのカリ長石、石英が脈状に分布する。 29.45m:傾斜55°と60°の割れ目沿いはマンガン鉱床で径2~3mm程度の斑点状に黒色化する。	15	15	CL'																				

第7.4.4.222図 (6) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-2孔)



第7.4.4.222図 (8) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-2孔)



第7.4.4.222図 (9) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-2孔)

ボーリング柱状図

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

調査名

事業・工事名

ボーリング名	H24-D1-3		調査位置	X:257.570, Y:898.500		北緯	35° 45' 12.41"	
発注機関	日本原子力発電株式会社		調査期間	2013年5月14日～2013年6月5日		東経	136° 1' 3.72"	
調査業者名			現代理人			ボーリング者		
孔口標高	6.90 m	方角	北	270°	東			
総掘削長	60.00 m	方位	上	180°	下	0°		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	孔内水位 (m) 測定月日					室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
											(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	(N 値 ~ 深度) 図	試験															
1	4.38	3.57	盛土	黒褐色	にぶい褐				0.00~9.84m: 盛土 0.00~0.18m: 層 径5~20mmの黒色砂岩からなる。 0.18~3.57m: 垂直じり粗砂。 径10~50mmの花崗岩。アブライトの重層を含まない粗砂でルースである。礫はほとんどが硬質である。径3~10mmの黒色砂岩も多く含む。	100	(100)																			
2	4.33	3.57	コア欠如						3.57~4.00m: スライム ほぼ均質な中粒砂で、ルースである。 3.96m以深では若干シルト分を含む。	50	(100)																			
3	4.07	4.00	盛土	灰褐色	にぶい黄橙				4.00~4.49m: 層、シルト混じり粗砂 径2~5mmの石英粒、長石粒、径5~20mmの花崗岩、アブライト、黒色砂岩片を含む。若干のシルト分を含む。ルースである。4.00m, 4.15m, 4.30m付近に木片を含む。	100	(100)																			
4	4.07	4.00	盛土	にぶい黄橙					4.49~6.00m: 垂直じり粗砂 径2~5mmの石英粒、長石粒、径5~10mmの花崗岩、黒雲母花崗岩、アブライトの重層を含む。ルースである。礫はほとんどが硬質。礫に黒色砂岩の層も含む。 4.49m, 4.55m付近に径70~100mmの黒雲母花崗岩、花崗岩の垂角礫を含む。	100	(100)																			

第7.4.4.223図(1) ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図(H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	試験	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
6	2.66	6.00	[X]	盛土	にふい黄橙						5.00~5.10m: 礫は孔壁から落下したコアである。 5.12m: 木片を含む。 5.25m付近に黒色の砂岩を含む。	100	D																		
		コア欠如		にふい黄褐				5.70m: 径3~4mmの黒色砂岩片数個が点在する。 6.00~6.39m: スライム中砂からなる。所々、粗砂を含み、やや不均質でややルーズ。 6.25~6.27m: 径2~3mmの黒色砂岩片を含む。 6.39~7.40m: 砂礫礫は径2~5mmの石英粒、径5~120mmの硬質な花崗岩の歪角~歪円礫からなり、礫率30~40%程度。基質は締まった細砂からなる。																							
7	1.67	7.40	[X]	盛土	にふい黄橙						7.00m: 径30mmの黒雲母花崗岩の半クサリ礫を含む。 7.20~7.25m: 礫は孔壁から落下したコアである。 7.40~7.75m: スライム中砂からなる。所々、粗砂や礫質礫を含み不均質。全体がややルーズである。 7.75~8.38m: 礫混じり砂、径2~10mmの黒雲母花崗岩、花崗岩の礫を含む細~中砂からなる。	100	D																		
		コア欠如		にふい黄褐				8.38~8.73m: スライム 8.38~8.60m間は径10~30mmの花崗岩の硬質な歪角礫主体で、8.50mに径20mmの黒色砂岩礫も含む。8.60~8.73m間は中砂からなる。 8.73~9.00m: 中砂やや不均質である。若干のシルトと小礫を含む。ややルーズである。 9.00~9.75m: スライム中砂からなる。9.66~9.75mには花崗岩の礫を含む。 9.35m付近に径5~10mmのモルタル片を多く含む。																							
8	0.97	8.38	[X]	盛土	灰黄褐						9.75~9.84m: モルタル砂岩状を呈する礫質モルタル。蓋盤は上傾角55°で採れている。 9.84~60.00m: 花崗岩。径1~7mmの裏石からなる。 9.84~10.77m: 著しく軟質化し、割れ目ほぼ消滅する。原岩組織は残留する。径10mm前後の大型の長石斑晶を多く含む。粘土化部や粘土質は分布しない。消滅しかかった傾斜40~60°の割れ目が残存することがある。	100	D'																		
		コア欠如		にふい黄橙				9.01 9.75 -0.06 9.84	盛土 コア欠如	にふい黄橙																					
9	0.01	9.75	[X]	盛土	灰黄褐																										
		コア欠如		にふい黄橙																											

第7.4.4.223図 (2) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 (N) 値	試験 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
11	-0.50 -0.52	10.47 10.50	花崗斑岩	明褐色	Eg Veg	dg	δ	2	10.47~10.50m: スライム 塊凝じり砂質シルトからなる。 10.77~12.00m: 著しく軟質化するが、 割れ目の大半は残留する。また、 原岩組織も明瞭である。割れ目は傾 斜40~60°とこれと斜交~直交す る50~70°の2系統が見られ、割れ目 とその周辺が風化で砂状化する部分 もある。割れ目の一部はマンガン鉱 染を受け黒褐色化する。粘土脈は殆 んど挟まない。	10.47~10.50m: 97 10.77~12.00m: 67	D'																				
12	-1.59 -1.68	12.00 12.13	花崗斑岩	明褐色	Eg Veg	dg	δ	2	11.90m: 傾斜45°の消滅しかかった 割れ目沿いに断片的に緑泥石化によ り緑灰色化する。 12.00~12.13m: スライム シルト質砂からなる。 12.13~13.03m: 原岩組織や割れ目の 大半は残留するが、コア全体が著し く軟質化する。傾斜30~40°の割れ 目と低密着割れ目主体で、一部で60 °の割れ目と斜交する。一部はマンガ ン鉱染を受け黒褐色化する。粘土脈 は1~3mmの緑灰色粘土が塊状に分布し、 12.17m以深は割れ目の一部に幅1mm前 後の粘土脈を挟む。いずれも軟質な 粘土である。 12.57~12.61m: 上端45°、下端35° で緑泥石化により緑灰色を呈する。 中央部に幅1~2mmの軟質な淡緑灰色 粘土を伴う。 13.03~13.32m: やや硬質で割れ目は マンガン鉱染を受ける。 13.32~13.47m: 風化で砂状してい る。 13.47~13.94m: 傾斜50°の割れ目が 平行に複数分布する。岩片はやや軟 質化するが、砂状化や粘土の挟在は ない。一部でマンガン鉱染を受け黒 褐色化する。 ●13.94~14.06m: 破砕部 (H-3破砕 帯) 13.94~13.98m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 13.98~14.00m: 粘土状部 (Hc-1) 14.00~14.03m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 14.03~14.06m: 粘土状部 (Hc-1) 14.06~14.41m: 原岩組織は残留する が、割れ目は大半が消滅する。残存 する14.30mの傾斜60°の割れ目のほ か、岩片間を縫うように幅1~2mmの 軟質な白~明黄褐色粘土が分布する。 ●14.41~14.52m: 破砕部 (H-4破砕 帯) 14.41~14.47m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 14.47~14.48m: 膠凝じり粘土状部 (Hc-2) 14.48~14.52m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 14.52~22.47m: 比較的割れ目が少な い。16.48~20.08mと21.75~22.47m 間は風化が強い。これを除く区間は やや風化が弱い軟質化する。全区間 で粘土化や粘土脈の分布は少なく、 変質は弱い。割れ目は傾斜10~40° が主体で、部分的にこれに交差する6 0~80°の割れ目や低密着割れ目が認 められる。	11.90 12.00 12.13 12.57 13.03 13.32 13.47 13.94 13.98 14.00 14.03 14.06 14.41 14.47 14.48 14.52	D'																				
13			花崗斑岩	にぶい黄褐色	Eg Veg	dg	δ	3	13.47~13.94m: 傾斜50°の割れ目が 平行に複数分布する。岩片はやや軟 質化するが、砂状化や粘土の挟在は ない。一部でマンガン鉱染を受け黒 褐色化する。 ●13.94~14.06m: 破砕部 (H-3破砕 帯) 13.94~13.98m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 13.98~14.00m: 粘土状部 (Hc-1) 14.00~14.03m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 14.03~14.06m: 粘土状部 (Hc-1) 14.06~14.41m: 原岩組織は残留する が、割れ目は大半が消滅する。残存 する14.30mの傾斜60°の割れ目のほ か、岩片間を縫うように幅1~2mmの 軟質な白~明黄褐色粘土が分布する。 ●14.41~14.52m: 破砕部 (H-4破砕 帯) 14.41~14.47m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 14.47~14.48m: 膠凝じり粘土状部 (Hc-2) 14.48~14.52m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 14.52~22.47m: 比較的割れ目が少な い。16.48~20.08mと21.75~22.47m 間は風化が強い。これを除く区間は やや風化が弱い軟質化する。全区間 で粘土化や粘土脈の分布は少なく、 変質は弱い。割れ目は傾斜10~40° が主体で、部分的にこれに交差する6 0~80°の割れ目や低密着割れ目が認 められる。	13.47 13.94 13.98 14.00 14.03 14.06 14.41 14.47 14.48 14.52	D'																				
14			花崗斑岩	にぶい褐色	Eg Veg	dg	δ	2	14.06~14.41m: 原岩組織は残留する が、割れ目は大半が消滅する。残存 する14.30mの傾斜60°の割れ目のほ か、岩片間を縫うように幅1~2mmの 軟質な白~明黄褐色粘土が分布する。 ●14.41~14.52m: 破砕部 (H-4破砕 帯) 14.41~14.47m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 14.47~14.48m: 膠凝じり粘土状部 (Hc-2) 14.48~14.52m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 14.52~22.47m: 比較的割れ目が少な い。16.48~20.08mと21.75~22.47m 間は風化が強い。これを除く区間は やや風化が弱い軟質化する。全区間 で粘土化や粘土脈の分布は少なく、 変質は弱い。割れ目は傾斜10~40° が主体で、部分的にこれに交差する6 0~80°の割れ目や低密着割れ目が認 められる。	14.06 14.41 14.47 14.48 14.52	D'																				

第7.4.4.223図 (3) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割目の状態	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(m)/測定月日	(N) 値 (N値~深度) 試験	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ピット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
16			+	花崗岩	にぶい橙	Dg	og	δ		16.17~16.28m: 割れ目沿いに風化・砂状化が進み、径10~30mmの麻状コアを呈する。 16.48m: 傾斜58°で幅2~4mmの軟質な灰白色粘土層を挟む。 16.48~17.68m: 硬質岩片を多く含む。割れ目は間隙的にシャープなものが多く、風化砂や変質粘土層などの挟在物も分布しない。	10 [10] 15 [15]	DL'														
17			+	花崗岩	灰褐	Bg	IVg			18.05~21.00m: 割れ目沿いに薄くマシオン風化を受ける。	13 [30]	GM'														
18			+	花崗岩	明褐色	Og	og	γ		19.10~19.22m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。	1 [21] 11 [20]	DL'														
19			+	花崗岩																						

第7.4.4.223図 (4) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
21			+	花崗斑岩	Cg	Dg	IVg	γ			20.77m: 傾斜50°で幅1~2mmの明黄色の軟質粘土脈を採む。粘土脈の上・下はマンガン風染で黒褐色化する。 21.00~22.30m: 傾斜40~60°の割れ目。低密着割れ目がほぼ平行に分布する。粘土脈の存在はないが、風化で薄く砂状化する割れ目もある。 21.16m・60°、21.61m・48°に幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布するが、後者の石英脈は直交する傾斜55°の割れ目で止まっている。	10 [10]	DL																				
22			+	花崗斑岩	Cg	Bg	IIIg	γ			22.28m: 傾斜58°の割れ目周辺幅1cmが緑泥石化により淡緑灰色化する。 22.47~23.77m: 割れ目は少なくなり、やや硬質~硬質部からなる。傾斜50~60°の割れ目が主体で、やや硬質の区間では、割れ目の一部はごく薄く砂状化するが、硬質の区間では砂状化は見られない。割れ目に粘土脈は挟まない。 22.77m: 傾斜55°の割れ目は交差する割れ目を止めている。一部、細いマンガン汚染の筋が横断する。割れ目に細筋筋は認められない。割れ目周辺の岩体には厚層組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 22.78~23.40m: 径2~3mmの黒雲母の斑晶が目立つ。	13 [38]	CH																				
23			+	花崗斑岩	Cg	Bg	IIIg	γ			23.77~24.94m: 互いに斜交~直交する傾斜50°前後の割れ目が主体である。風化で割れ目の一部は薄く砂状化することがある。粘土化部や粘土脈は分布しない。	23 [44]	DL																				
24			+	花崗斑岩	Cg	IVg	Vg	δ			24.94~25.20m: 上位に比べ割れ目が多くなり、割れ目沿いに薄く砂状化することが多い。	24 [28]	DL																				

第7.4.4.223図 (5) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 → (%) ← om R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値 (N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進深度 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (KN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
26				花崗斑岩	明褐色	Cg	VE			25.29~26.97m: 傾斜50~70°の割れ目主体で、一部でこれと斜交~直交する50~60°の割れ目が見られる。上位に比べ風化は弱くなるが、一部の割れ目では薄く砂状化する。粘土化部はなく、致密部の割れ目に幅1~5mmの軟質粘土脈を挟む。 25.94m: 傾斜20°で幅20mmがマンガン脈染で黒褐色化する。 26.14m: 傾斜58°の割れ目の一部に幅1~5mmの軟質な灰白色粘土が分布する。割れ目沿いは全体にマンガン脈染で黒褐色化する。 26.34m: 傾斜45°で幅0.5mmの軟質な灰白色粘土を挟む。 26.72m: 以深は上位に比べ、硬くなる(硬さ「C」)。 26.97~27.06m: 上深45°、下深50°の割れ目間は風化で全体が軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。 27.26~28.43m: 27.64m以浅はやや硬質であるが、それ以深は軟質化する。割れ目は残留し、傾斜40~60°のものが多い。割れ目や低密着割れ目沿いは多く砂状化することが多いが、粘土部や粘土脈の分布は少ない。 27.70m: 傾斜60°の割れ目沿いで、幅5mm程度は長石が粘土化する。 28.43m: 傾斜60°で幅1~2mmの軟質な粘土脈を挟むが、マンガン脈染により褐灰色化し、粘土の色調は不明である。 28.43~29.31m: 風化のため割れ目の一部は消滅しかかっている。割れ目は上位と同様に傾斜40~60°のものが主体であるが、一部でこれらと斜交~直交する40~50°の割れ目も存在する。また、これらの低密着割れ目も多い。割れ目沿いに薄く砂状化するものも多いが、粘土化や粘土脈の挟持は少ない。 28.57m・45°、28.72m・55°の割れ目は幅2~3mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 29.31~29.95m: 上位と硬さはほぼ同程度であるが、割れ目は少なくなる。風化で割れ目が消滅していることが多い。 29.95~33.30m: 全体に風化により軟質化~著しく軟質化する。32.65m以深では割れ目が残置し、一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以外では割れ目は一部消滅し、割れ目や周辺部まで砂状化が進む。割れ目は傾斜20~40°とこれらと斜交~直交する50~70°の割れ目及び低密着割れ目が主体である。粘土化部や粘土脈の分布はわずかで、マンガン脈染を受け、黒褐色化する。	2 [32] 10 [10] 5 [15] 8 [10] 11 [22]																						
27				花崗斑岩	明褐色	Cg	VE																										
28				花崗斑岩	明褐色	Cg	VE																										
29				花崗斑岩	明褐色	Cg	VE																										

第7.4.4.223図 (6) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	(N) 値	(N値~深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
31			+++++	花崗岩	にふい黄橙	Dg	Vg	og	2	30.24m: 傾斜60°で幅2mmの褐色の硬質な粘土を断片的に採む。上端幅5mmにマンガン濃染部を伴う。 30.74mの傾斜80~85°で弯曲した割れ目と30.85mの傾斜55°の割れ目で囲まれた部分は周囲より風化が進み砂状化する。 30.85m: 傾斜55°の割れ目は風化でにふい黄橙色の幅1~2mmの軟質粘土脈を採む。	5 (0)	DL'																			
32																															
33			+++++	花崗岩	明褐灰	Eg	Vg	og	3	32.30m: 傾斜60°の割れ目は幅1mmのにふい黄褐色の軟質粘土脈を採み、交差する傾斜30°の割れ目を止めてある。割れ目周辺の岩脈には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.68m: 傾斜55°の割れ目は幅1~2mmの褐色の軟質粘土脈を採むが、不連続である。これと直交する傾斜45°の割れ目を止めている。割れ目周辺の岩脈には原岩組織が認められる。 32.63~33.30m: 割れ目は残留する。 33.00~33.30m: 割れ目、低密着割れ目に沿ってマンガン藍染で黒褐色化する。 33.30~34.23m: 原岩組織と割れ目はほぼ消滅する。全体に傾斜40~50°で幅1~8mmの軟質なにふい黄褐色粘土脈が分布する。 33.40~34.23m: 傾斜40~50°の割れ目及び低密着割れ目の一部がわずかに残留し、その一部は幅1~2mmで軟質なにふい黄褐色の粘土脈を採むことが多い。	7 (0)	D'																			
34																															
			+++++		にふい黄橙	Vg	og			34.17~34.23m: マンガン藍染を受け、黒褐色化する。 ●34.23~34.52m: 破碎部 (0-1破碎帯) 34.23~34.39m: 粘土混じり岩片状部 (H) 34.52~35.81m: マンガン藍染を伴うせん断面がある。 34.39~34.40m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜55°で直線的にシャープに連続する。径1mmの石英粒を含む。軟質。白色~灰黄色を呈する。幅5~7mm。 34.40~34.52m: 粘土混じり岩片状部 (H) 34.52~35.81m: 傾斜30~60°の割れ目、低密着割れ目が多い。35.14~35.27mでは傾斜40°前後の割れ目が10~20mm間隔で平行に分布し、マンガン藍染を受け、黒褐色化する。各割れ目には幅1~3mmの軟質な白色~灰黄色粘土脈を採むことが多い。 34.60m: 傾斜60°で幅1~2mmの灰白色粘土を採む。 34.80~34.99m: マンガンや灰白色粘土が網目状に分布する。	1 (0)	DL'																			

第7.4.4.223図 (7) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘進深度 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
36			+	花崗斑岩		Dg	Ⅴg			3	35.81~36.53m: 一部、硬質部も含み、全体がやや硬質である。傾斜40°~60°の割れ目が主体で、一部で薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。	6 10	400																						
37			+	花崗斑岩		IVg	Ⅴg	γ			36.53~36.82m: 傾斜60°~70°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、コアは岩片状となる。 36.82m: 傾斜60°の割れ目の上端側は傾斜5°~10mmで緑泥石化により淡緑灰色化するが、粘土は伴わない。径0.5mm以下の微細な白雲母や金鱗鉱物が晶出する。 36.82~44.01m: 傾斜40°~60°の割れ目を主体とする。一部でこれに斜交する60°~80°の割れ目が分布する。38.34~38.74mでは割れ目沿いに風化で褐色化が進むが、軟質化は伴わない。全体にやや硬質で、一部で硬質部を伴う。粘土化や粘土脈は傾斜1~2mmの軟質ないし硬質の白色~風化して明黄褐色粘土を伴うが、分布は少ない。	6 10	400																						
38			+	明褐色		Cg	IVg	cg		2	37.69m: 傾斜80°の割れ目は、37.77m付近で傾斜45°で幅1mmの石英脈を止めている。割れ目には幅1mm以下の不連続な黄褐色粘土を挟む。割れ目周辺の岩強は褐色化しているが、原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	13 15	400																						
39			+				Ⅴg	γ			38.34~38.41m: 傾斜45°の割れ目が5~30mm間隔で平行に分布し岩片化する。38.38~38.41mでは傾斜40°の割れ目沿いに傾斜1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、粘土脈間縁数mmが淡縁灰色化する。 38.41~38.72m: 傾斜40°の割れ目間辺が風化~褐色化する。	9 11	400																						

第7.4.4.223図 (8) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘進深度 (m)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
41			+++++			VE				40.61m: 傾斜45°の割れ目の下端割れ目より5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅2mmの石英脈を伴う。 40.87~44.01m: 傾斜40~50°の割れ目がほぼ平行に3~10cm間隔で規則的に分布する。割れ目面は薄く褐色化するのみで砂状化は伴わない。一部で幅1mm以下の軟質粘土脈を挟むが、分布は少ない。 40.92m・55°~40.95m・60°は一部砂状化し、幅0.5mmの軟質白色粘土脈を挟む。 41.40m・45°、41.57m・50°の割れ目は、いずれもほぼ直交する傾斜55°の割れ目を止めている。いずれの割れ目にも挟在物は見られず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 41.50~44.30m: 一部の割れ目と割れ目沿いにマンガン風化が見られ、薄く黒褐色化するが、劣化は伴わない。	7 [10]																					
42			+++++	花崗斑岩		CG		γ		42.04m: 傾斜58°で幅2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 42.08m・50°、42.12m・40°の各割れ目に幅2mmの灰白色の硬質粘土脈、幅2mmのこぶい黄褐色の軟質粘土脈をそれぞれ挟む。 42.19m: 傾斜20°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	13 [13]																					
43			+++++	明褐色		IVe		cg		43.08m: 傾斜45°で幅8~10mmが緑泥石化により淡緑灰色化する。粘土化などの劣化は伴わない。 43.14m: 傾斜50°で幅1~2mmの軟質灰黄色粘土脈を挟む。	8 [10]																					
44			+++++			Dg		δ		43.60m・60°と43.61m・60°の割れ目に囲まれ、径2~5mmに細片~砂状化する。上端部の割れ目の一部に幅1mmの灰黄色の硬質粘土脈が伴う。 44.01~44.29m: 軟質化し、割れ目の一部は薄く砂状化する。44.12m及び44.14mの傾斜50°の割れ目に幅2mmで風化した黄褐色を呈する粘土脈を挟む。 44.29~47.37m: 傾斜40~60°の割れ目が主体に平行に分布する。一部ではこれらに斜交する傾斜60~80°の割れ目も分布する。上記割れ目と同系統の低密着割れ目も多く分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化したり、粘土脈を挟むが、いずれも分布は少ない。ただし、46.53~46.60mは硬質粘土化部で軟質である。 44.49m: 傾斜50°の割れ目は一部珪化と緑泥石化による淡緑灰色化を伴う。また、径0.5mm以下の微細な白雲母が混入する。 44.91m: 傾斜52°で幅2~3mmの軟質明黄褐色粘土脈を挟む。	12 [12]																					
											11 [11]																					

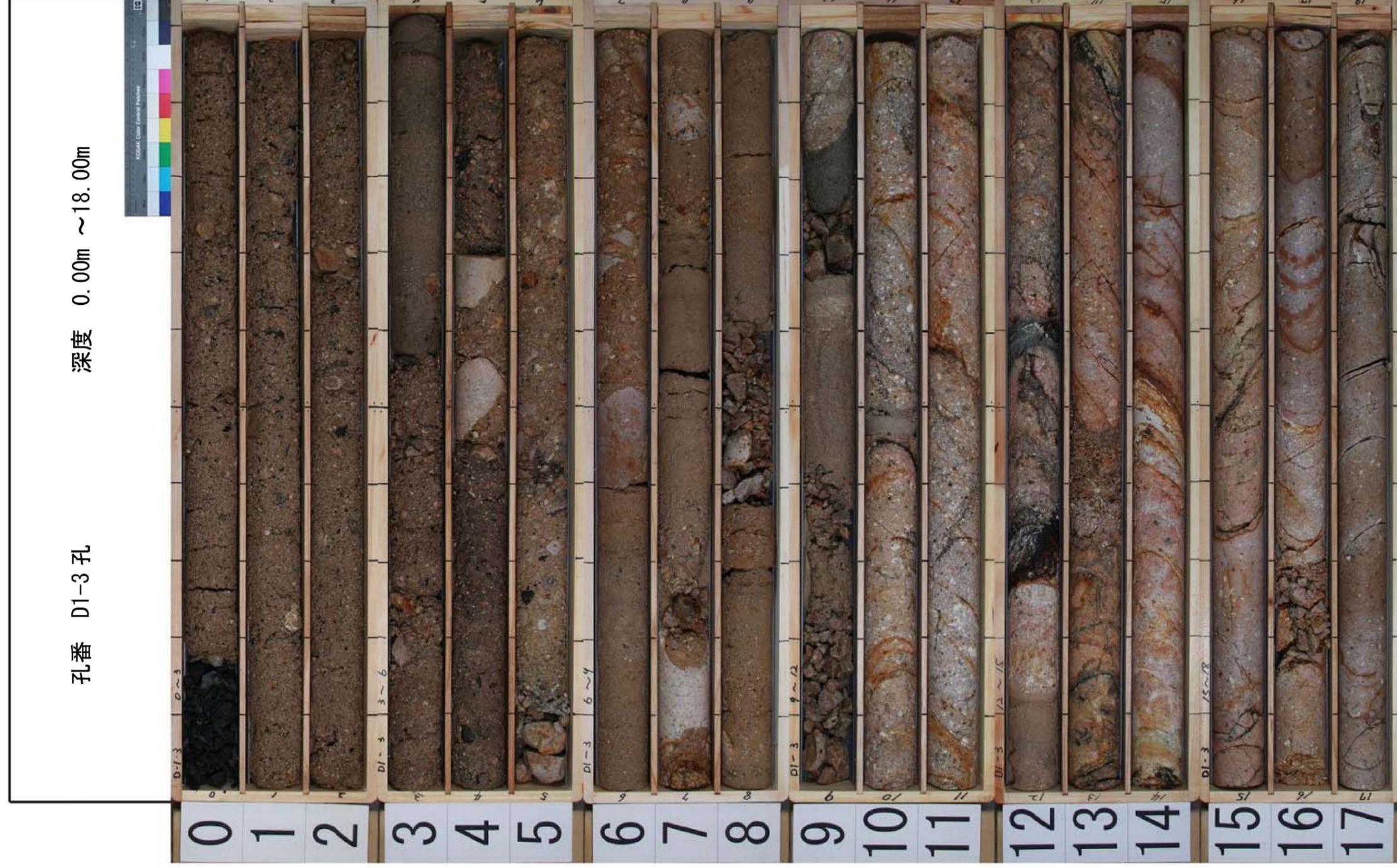
第7.4.4.223図 (9) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記事	コア採取率 (%)				岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 (N 値) 試験 (N 値 ~ 深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)									
											最大コア長 (cm)	R	Q	D															L [%]								
46				花崗斑岩			IVg			45.32m: 傾斜55°の割れ目沿いの幅約5mm前後が綠泥石化により淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細な白雲母が晶出する。 45.57m: 傾斜55°の割れ目は、交差する60°と80°の割れ目を止めていない。割れ目には接在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 45.80~45.87m: 傾斜70°の低密着割れ目沿いに軽微にマンガン鉱染を受ける。	10	100																									
47				明褐色			IVg			46.23m: 傾斜57°で幅5mmの灰白色の濃密な粘土脈を挟む。 46.28m: 傾斜50°の割れ目沿い幅10mmが綠泥石化により淡緑灰色化する。径0.5~1mmの白雲母が晶出する。 46.59~46.60m: 上傾45°で直線的にシャープに連続。下傾40°で不明瞭である。径5~10mmの粘土化~硬さ「D」の岩片や長さ10mm、幅5mm前後の粘土化した岩片を多く含むマンガン濃染部である。マンガン濃染を受けれる岩片の定向配列は見られない。原岩組織が認められる。全体に明褐色~黒褐色を呈する。幅40mm以上。 46.87~46.92m: 傾斜40~60°の割れ目沿いのマンガン濃染が著しく、黒褐色化する。 47.20m: 傾斜50°の割れ目に幅0.5mm以下のごく薄い軟質な灰白色粘土が断片的に付着する。 47.37~47.66m: 傾斜50°の直線的にシャープな割れ目がほぼ平行に分布し、これに斜交~直交する30~80°の不規則に連続する割れ目や低密着割れ目が分布する。これらの割れ目は互いに交差しており、割れ目に接在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 47.92m: 傾斜50°で幅5~6mmの石英脈が母岩に密着するが、脈中央部から割れ目化する。 47.66~48.35m: 傾斜50°前後の割れ目が主体で、上位から連続する70~80°の割れ目がこれらに交差する。 48.11m: 傾斜75°と40°の割れ目が交差し、向割れ目に囲まれた部分は5mm前後の角礫状を呈する不連続なマンガン濃染部で、軟質である。粘土化は伴わない。 48.35~49.35m: 傾斜30~60°の割れ目が主体で、これらに60~80°の割れ目が斜交する。一部の割れ目では薄く砂状化することがある。粘土化部はなく、粘土脈を挟む割れ目はあるが、分布は少ない。 48.39m・50°・48.56m・55°の各割れ目に幅0~5mmの砂状~径5mm前後の細片を挟む。後者はマンガン濃染を受け黒褐色化する。 48.71m: 傾斜55°で幅1~2mmの軟質な明褐色粘土脈を挟む。 49.21m: 傾斜75°の割れ目は、ほぼ直交する傾斜40°の割れ目や珪化した脈に横断される。もしくは、傾斜40°の割れ目を止めていない。割れ目には接在物が見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 49.35~49.93m: 硬さ「B」と堅硬で、割れ目には砂や粘土などの接在物はほとんど分布しない。傾斜50~70°とこれに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。 49.61m: 傾斜75°の割れ目は、その下端側で7本の傾斜10~30°の割れ目を止めている。本割れ目の沿割れは湾曲して連続する。割れ目には接在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 49.71m: 傾斜50°で幅1~2mmが砂状化する。 49.93~50.76m: 傾斜50~60°の割れ目、低密着割れ目がほぼ平行に1~3cm間隔で分布する。割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1mm以下の白色軟質粘土が付着する。粘土は脈としてコア全体に連続するものは殆んどない。	8	100																									
48				明褐色			IVg																														
49				明褐色			IVg																														

第7.4.4.223図 (10) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
56				花崗岩	灰褐色	Bg, IVg, Vg, Eg, Dg	bg, dg, cg	γ, δ	γ	2	55.18~56.71m: 傾斜40~60°の割れ目とこれらに斜交する傾斜40~50°の割れ目が主体で、55.53m以下では風化で割れ目沿いが砂状化していることが多いが、以深では砂状化は少なくなる。粘土脈は分布しない。55.49m・55°と55.53m・48°の高割れ目に囲まれた部分は燧理石化により淡緑灰色化し、各割れ目沿いに幅1mmが風化で褐色化した砂を挟む。また、断片的に幅1mmの黄褐色軟質粘土も付着する。	6 0	CL																								
57				花崗岩		Bg, IVg, Vg, Eg, Dg	bg, dg, cg	γ, δ	γ	3	56.49m・15°及び56.58m・55°の割れ目は、いずれも交差する割れ目を止めている。割れ目には存在物は認められない。割れ目周辺の地盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。56.71~56.88m: 傾斜40~60°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目には幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を挟むことが多くある。56.71m: 傾斜45°で幅1~2mmの軟質な灰白色粘土脈を挟み、燧理石化により淡緑色化する。また、径0.5mm以下の金属鉱物(黄鉄鉱)が多く露出する。	4 0	CL																								
58				花崗岩		Bg, IVg, Vg, Eg, Dg	bg, dg, cg	γ, δ	γ	2	●56.88~57.24m: 破砕部(HJ) 上端40°で連続的にシャープに、下端58°で波打って連続、径5~20mmの粘土化~硬さ[D]の岩片からなり、岩片間を幅1~2mmの軟質灰白色粘土脈が網状に分布する。明褐色~白色を呈する。 57.15~57.20m: 硬質粘土状部(Hb)上端58°で波打って、下端60°でやや波打って連続、径1~2mmの石英粒や波打って連続、径5~30mmの粘土化した花崗岩の塊を多く含む。やや軟質、明褐色~オリーブ灰~灰白色で網状を呈する。 57.20~57.24m: 粘土状部(Hc-1)上端60°でやや波打って、下端60°で連続的にシャープに連続、軟質で互いに黄褐色を呈する。幅2~6mm。	3 0	CL																								
59				花崗岩	明褐色	Bg, IVg, Vg, Eg, Dg	bg, dg, cg	γ, δ	γ	2	上端60°で連続的にシャープに、下端60°で一部不明瞭に連続、径5mm前後の粘土化~硬さ[D]の花崗岩の岩片からなり、岩片間を幅0.5~1mmの軟質な灰白色の粘土脈が網状に分布する。明褐色を呈する。幅2.5mm。 57.24~58.03m: 傾斜40~60°の割れ目、低密着割れ目が1~3cm間隔で平行に分布する。割れ目は一部砂状化し、幅0.5~1mmの軟質な灰白色粘土脈も一部に挟まれる。 57.90~57.94m: 傾斜40°の割れ目沿いに砂状化が僅み、上端間の割れ目沿いはマンガン鉱染で黒褐色化する。 58.00m: 傾斜60°で幅8~10mmのマンガン濃集部を伴う。割れ目に沿って階段状に分布する。 58.03~58.29m: 互いに交差する傾斜50~80°の割れ目と一部で同角度の低密着割れ目が分布する。割れ目の一部はごく薄く砂状化する。 58.29~58.53m: 径5~30mmの硬さ[C]岩片と硬質な砂状の基質からなる角礫状部で、58.33mの傾斜20°の割れ目に幅0.5~3mmの軟質な灰褐色粘土脈を不連続に伴う。角礫状部には原岩組織が認められ、含まれる際に移動や回転は見られない。 58.40~58.46m: 一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。 58.53~60.00m: 互いに交差する傾斜30~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、58.66~59.71mは砂状化と変質が連んで著しく軟質化している。58.91~59.90m間は割れ目が多いが、割れ目に挟在物は殆んどない。 59.46m: 傾斜45°の割れ目沿いに幅5~10mmが燧理石化により淡緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な白雲母を伴う。粘土化部や粘土脈は挟まない。 59.90~60.00m: 割れ目沿いに風化がやや進み、薄く砂状化するものがある。	5 0	CL																								

第7.4.4.223図 (12) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)



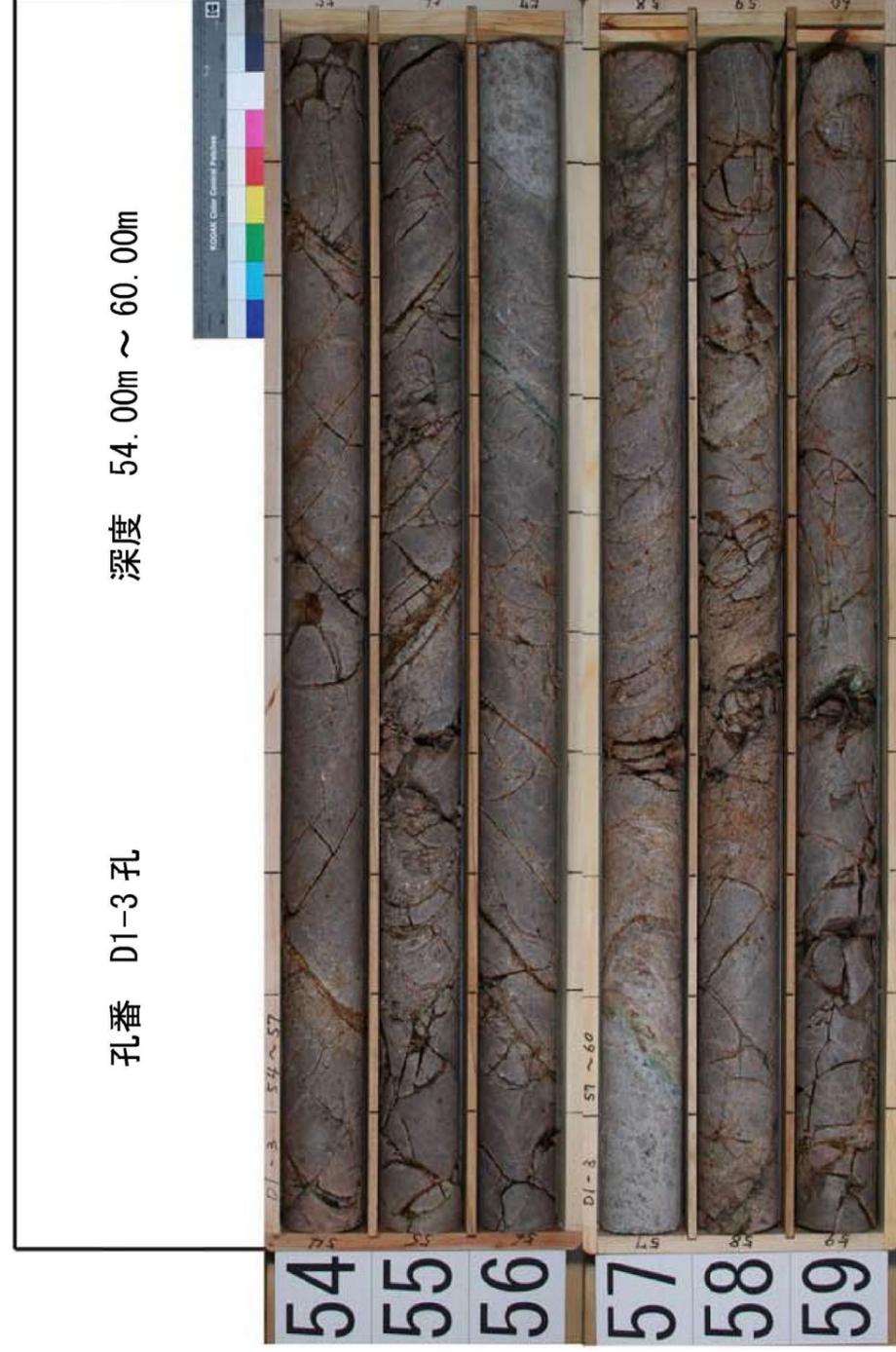
第7.4.4.223図 (13) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)



第7.4.4.223図 (14) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)



第7.4.4.223図 (15) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)



第7.4.4.223図 (16) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変風	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	標準貫入 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
6				盛土	にぶい黄橙					5.60~7.62m: 礫混じり粗砂。上位に比べて礫量が減少する。上位よりルーズとなる。礫は径5~10mmの花崗斑岩の半クサリ礫が主体で、一部クサリ礫を含む。 6.00~6.45m: 径10mm前後の硬質な礫が主体となり、礫量が多い。礫率は50%程度で上下に比べて揃っている。 6.36~6.42m: 明赤灰色の軟質な粘土が不規則な形で分布する。透水性なし深部割れ目の連続性は無い。 7.00m以深では風化した半クサリ礫が多くなる。 7.40m以深は礫量が少ないルーズな花崗斑岩の粗砂からなる。																								
7				花崗斑岩	にぶい橙	Dg IVe cg				7.62~17.89m: 花崗斑岩。径2~10mmの石英、長石の混入を5~15%程度含む。 7.62~9.26m: 原岩組織と割れ目は残留し、硬質粘土化部と粘土層は殆んど分布しない。傾斜30~60°の割れ目が主体で、一部で傾斜60~80°の割れ目が交差する。風化により割れ目沿いに数mm程度砂状~小細片化する。 8.78m・60°、8.91m・65°の割れ目に幅0.5mmの軟質な白色粘土が断続的に付着する。 9.05~9.20m: 褐色化が顕著に見られる。 9.17~9.20m: 傾斜50°の消滅しかかった割れ目沿いに風化により褐色化するが、砂状~粘土状などの劣化はない。 9.21~9.43m: 褐色変質が顕著である。 9.26~9.38m: 全体に風化と変質で軟質化が著しい。9.26~9.32mと9.36~9.38mでは、粘土混じり岩片状を呈し、径5~10mmの緑灰色化した岩片主体で、岩片間には幅1mm程度の軟質な泥状(上層部)~灰白色(下層部)の粘土層が分布する。9.32~9.34mでは、傾斜45°で幅30mm程度が更に粘土化した硬質粘土で、径3~10mmの緑灰色化した粘土化岩片を多く含む。9.34~9.36m: 上層45°、下層50°で連続的に連続する幅5~15mmの軟質な泥状赤褐色を呈する粘土層を含む。 9.38~10.76m: 全体にやや軟質で、一部は風化により著しく軟質化する。一部で消滅しかついているが、大半の割れ目は残留し、傾斜30~70°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~40°の割れ目も分布する。後者の割れ目は前者の割れ目より深まっていることが多く、10.00m以深では、前者の割れ目に幅1~2mmの軟質な灰白~淡黄色粘土を挟み、一部にはマンガンを伴う、いずれの割れ目周囲の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 9.43~9.50m: 褐色化が顕著に見られる。																								
8	1.56	7.62		花崗斑岩	明黄橙	Eg VIe dg																												
9				花崗斑岩	明橙灰	Dg V# cg																												

第7.4.4. 224図 (2) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
11				花崗斑岩	明褐色	Dg Vg Eg	Vg	Dg Vg Eg	cg dg	<p>10.76~10.88m: 上端35°で直線的にシャープに、下端50°で波打って連続。傾斜20~25°の割れ目の一部に幅0.5~1mmの軟質~一部硬質な灰質色粘土脈を挟み混じり岩片状を呈する。にぶい褐色を呈する。幅110mm。</p> <p>10.88~10.91m: 上端30°、下端35°でともに連続的にシャープに連続する。径9~10mmの風化して軟質化~粘土化した岩片を含む粘土質軟状部で、マングン脈末により一部は黒褐色化する。全体ではにぶい橙~黒褐色を呈する。幅20~30mm。</p> <p>●10.91~10.93m: 破砕部 (0-1破砕帯)</p> <p>疎理じり粘土状部 (Hc-2) 上端33°、下端38°でともに直線的でシャープに連続する。径1~2mmの石英粒と粘土化した径3~5mmの岩片を互に含む。軟質。下端には石英粒、岩片を含まない軟質な幅1~2mmの灰白色粘土が連続する。全体は淡黄褐色を呈する。幅15~18mm。</p> <p>10.93~11.2m: 粘土化部や粘土脈は殆んど分布しないが、全体に軟質化する。</p> <p>11.2~11.65m: 傾斜50~70°の割れ目が主体で、これに斜交~直交する20~50°の割れ目が一部に分布する。粘土脈は殆んど挟まないが、割れ目沿いに砂状化する。</p> <p>11.65~17.8m: 上位より割れ目が少なくなると、全体にやや軟質であるが、割れ目沿いの一部は風化でより軟質化する。</p> <p>12.60m: 傾斜45°で幅1~2mmの石英脈を挟み、境界は割れ目化する。割れ目とその周辺の幅10~20mmはマングン脈末により黒褐色化する。</p> <p>13.00~13.38m: 風化で砂状化が進む部分が多い。</p>	3 (0) 4 (0) 7 (0) 6 (0) 7 (0)																						
12				花崗斑岩	明褐色	Vg IVg Vg	Vg																										
13				花崗斑岩	明褐色	Dg IVg	Dg																										
14				花崗斑岩	明褐色	IVg	IVg																										

第7.4.4.224図 (3) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水位 観測)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘進深度 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
16			+++++	花崗斑岩		Dg	IVg	δ		15.27m以深は、割れ目は風化し褐色化するが、割れ目周辺の砂状化は認められない。粘土化部は分布せず、割れ目に挟在する粘土脈の分布も少ない。割れ目沿いの一部は薄くマンガン鉱染を受ける。 15.50m：傾斜55°、で幅1~10mmと膨縮する軟質な灰黄色粘土脈を挟む。 16.00~17.10m：薄軟の傾斜75~85°で湾曲しながら連続する割れ目が分布する。一部で幅1mmの軟質な灰黄色粘土を挟む。	8 10	1000																					
17			+++++	明褐灰		Dg	IVg	cg	2	17.03m・45°、17.82m・40°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 17.32m：傾斜60°で幅2mmの軟質~やや硬質な明灰オリーブ色の粘土脈を挟む。緻密な白雲母を伴う。割れ目に沿って褐色化が顕著に見られる。	7 9	1000																					
18			+++++	黒雲母花崗岩		Dg	IVg			17.89~18.44m：黒雲母花崗岩 上端50°で幅2~4mmの石英脈と径2~5mmの緑泥石を伴って、平均径3~10mmの石英、長石、径1~3mmの黒雲母の斑晶からなり、等粒状結晶をもつ黒雲母花崗岩である。長石は径10mmと大型化するものもある。下端境界は花崗斑岩に推移する。上端境界付近でわずかに変質粘土化するが、これ以外での粘土化はない。割れ目や孔隙相織は残留するが、風化で著しく軟質化する。 18.44~19.00m：花崗斑岩 19.11~19.33m、28.49~30.40m付近55.84~57.00m付近など斑晶の量が少なく、アブライト様を呈する部分を挟む。 18.44~21.00m：傾斜30~50°の割れ目が主体で、一部で60~70°の割れ目も交差する。一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。 18.90~19.75m：傾斜30~50°で幅1~5mmの石英脈が母岩に密着して連続分布する。脈周辺に粘土化は伴わない。 19.08m：傾斜50°で幅2~3mmの硬質な褐色粘土脈を挟み、上端側幅約50mmはマンガン鉱染を受ける。	6 8	1000																					
19			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Og	IVg	γ			6 8	1000																					

第7.4.4.224図 (4) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 (%) 最大コア長 [cm] R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
21			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	IV _E	IV _E	γ			20.60m: 傾斜70°の割れ目沿いに風化して褐色化が進むが、砂状化などの劣化は伴わない。割れ目沿いはマンガン脈等で黒褐色化する。 21.00~21.66m: 割れ目は少ないが一部で傾斜60°前後の低密度割れ目を含み、打撃で分離しやすい。 21.19m・35°・21.44m・50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	7 [0]																					
22			+++++	花崗斑岩		III _E	cg			2	21.50m: 傾斜60°の割れ目は、21.44m・50°の石英脈で横断される。割れ目には不連続な黄灰色粘土を挟む。割れ目周辺の岩壁には脈石組織が認められ、糸状の割れ目も存在しない。 21.66~26.78m: 傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いに薄く砂状化したリ、幅1~3mmの軟質な灰白色などの粘土脈を挟むことがある。粘土脈の分布は少ない。 22.36~22.40m: 径15mmの大型の長石斑晶が空個見られる。	13 [38]																					
23			+++++	花崗斑岩	明褐色	IV _E	IV _E	δ			22.72m・45°~22.78m・50°の間は、風化で砂状化が進む。粘土化は伴わない。22.78mの割れ目に沿って褐色化が見られる。 23.27m: 傾斜50°で多少湾曲した割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。 23.40~23.77m: 傾斜60~70°の低密度割れ目が複数平行に分布し、一部で石英、長石斑晶を横断する。割れ目沿いに幅1~2mmで砂状化し、風化で褐色化する。 23.76~24.00m: 傾斜70~90°の湾曲した高角度割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。	10 [10]																					
24			+++++	花崗斑岩		D _E	D _E				24.15~24.40m: 径10~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。 24.59m、25.09m、25.61m: 傾斜40~45°の割れ目沿いに幅10~20mmが緑泥石化により濃緑灰色化し、径0.5~1mmの白雲母を伴う。	8 [0]																					

第7.4.4.224図 (5) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値 (N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水圧 載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
26	-12.26	27.16		花崗斑岩	明褐色	Dg IVe	cg δ 2			25.40m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。 25.41m: 傾斜55°で幅1~3mmの岩片埋じり褐色粘土を挟む。割れ目沿いはわずかに緑色化する。 25.61m: 傾斜40°で幅1~2mmの岩片埋じり褐色粘土を挟む。 25.96m・50° ~ 26.22m・45°の間は、全体が風化で細片状~砂状化が主体となる。 26.78~27.75m: 低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、ハンマーの打撃で径1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目沿いに砂状化し、27.00~27.22mでは砂状部分が掘削時に流失している。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。 27.16~27.22m: スライム		D'																		
27	-12.26 -12.30	27.16 27.22								コア尖																			Eg Ve	
28				花崗斑岩	灰褐色	Eg Vg cg	δ dg cg			●27.75~28.43m: 破砕部 27.75~27.91m: 粘土質硬状部 (H) 上端20°で砂状化し不明瞭。下端15°で直線的にシャープに連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmのほほ粘土化した岩片を多く含む。やや軟質。下端は幅2~3mmでマンガン脈を穿ける。上端側は明褐色、下端側は明赤灰色でマンガン脈部は黒褐色を呈する。幅160mm。 27.91~28.33m: 粘土埋じり岩片状部 (H) 上端15°。下端53°。ともに直線的でシャープに連続。幅1~5mmの灰褐色にふい黄褐色の軟質粘土が27.91~27.96mでは10~20°で、27.96m以下では網状に分布する。全体に明褐色にふい黄褐色を呈する。 28.33m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜53°で直線的にシャープに幅2~5mmの灰黄褐色の軟質粘土からなる 28.33~28.43m: 粘土質硬状部 (H) 上端53°。下端60°。ともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。灰白~明赤灰~明黄褐色を呈する。幅60mm。 28.43~29.73m: 傾斜30~60°。主体の低密着割れ目を多く含む。粘土脈を挟む割れ目は少ない。 28.57m: 傾斜65°で幅2mmの粘土脈を挟むが、マンガン脈染で黒褐色化する。 29.73~30.20m: 硬質で割れ目も少ない。ほぼ未風化。未変質である。		D'																		
29										Cg Vg																				

第7.4.4.224図 (6) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
31				花崗斑岩	灰褐色	Bg	Ⅲε	bg		30.20~31.03m: 低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔である。割れ目、低密着割れ目は傾斜30~50°が主体で、それらに沿って薄く砂状化する部分もある。	12 172	CL'																	
32						31.03~32.30m: 傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する40~50°の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目沿いに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈はほとんど見えない。 31.25~31.40m間はやや湾曲した傾斜80~90°で、31.60~31.61mでは傾斜50°で、幅5~20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。 31.37~31.51m: 1~1.5cm間隔で傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が平行に分布する。 31.75~32.30m: 傾斜85~90°の割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な灰白色粘土が付着する。	7 9	CL'	CM'																				
33				花崗斑岩	灰褐色	Dg	Ⅴε	cg δ		32.13m: 傾斜60°、幅5~8mmで径1~3mmの脈を含むマンガン脈を挟む。角礫化し残っている部分があり、岩片は移動や回転をしていない。 32.30~33.10m: 一部で硬さ「B」の硬質岩片を含む。傾斜30~50°の割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。32.86mの傾斜80°の割れ目の上端側は、割れ目沿いの砂状化はないが、下側側の一部では、割れ目沿いの一部が風化で薄く砂状化する。32.68mに傾斜460°で、32.76mに傾斜30°で幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通して殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に幅0.5mm以下のフィルム状の粘土が付着する。 33.10~33.65m: 割れ目の面は一部酸化褐色化するが、砂状化や粘土はほとんど見えない。 33.24m: 傾斜75°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 33.29~33.96m: 傾斜45~60°で幅2~5mm程度のカリ長石の脈を伴う。	9 10	CL'	CH'																
34						33.65~37.15m: 34.64m以深はやや硬質主体、それ以深は硬質である。割れ目は傾斜30~50°が主体であるが、一部でこれらに斜交~直交する50~60°の割れ目も分布する。また、これらの2系統の割れ目と交差する70~90°の割れ目が35.42m付近、36.50m付近などに分布する。34.64m以深では一部の割れ目沿いが薄く砂状化するが、それ以深では砂状化しないものが主体である。33.75mに傾斜35°で幅20mm程度の柱化した脈を挟む。 34.00m: 傾斜60°で幅1~5mmの硬質な白色鉱物脈が直線的にシャープに連続する。下端側34.22m付近まで風化で軟質化する。 34.57m・45°~34.63m・65°間は細かい割れ目が発達し、全体に硬さ「D」に軟質化する。粘土化はないが、若干砂状化する。マンガン脈を伴って黒褐色化する。	9 10	CL'	CM'																				

第7.4.4.224図 (7) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験 図	原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (KN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
36				花崗斑岩	灰褐色	Bg	IVg	Bg	IVg	35.40m: 傾斜40°の割れ目と70°の割れ目が交差し、径20~30mmに細片状を呈するが、岩片は硬く、砂状化や粘土化、粘土脈は伴わない。 35.90m: 傾斜30°の低密着割れ目の一部に幅0.5mmの軟質な白色粘土が付着するが、連続性はない。 36.30~37.20m: 傾斜75~90°の高角度割れ目が多く分布し、所々で傾斜50°前後の割れ目で止められる。一部で砂状化するが、粘土化や粘土脈は挟まない。 36.37m: 傾斜45°の割れ目は交差する傾斜75~80°の割れ目を止めていく。割れ目の中には幅1mmで風化による砂を挟むが、粘土は伴わない。割れ目周辺には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 36.68m: 傾斜55°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して分布し、38.69mで上位の高角度割れ目を横断する。 36.80~37.00m: 傾斜75~80°の高角度割れ目に幅2~4mmでマンガン鉱染により黒褐色化した砂を挟む。 37.15~39.41m: 上部には割れ目が多く、傾斜40~50°が主体で、これに斜交する60~80°の割れ目も分布する。37.15~37.68m間では粘土化部や粘土脈の挟み込みなどない。割れ目沿いに薄く砂状化するものもある。37.68~38.95m間では割れ目は風化で薄く粘土化するが存在物はない。38.95~39.41m間では割れ目が消滅することが多い。 37.15~37.68m: マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐色色を呈する。 38.12~38.20m: 割れ目沿いに褐色化するが、岩片は劣化していない。	9 10	CM'																					
37				花崗斑岩	褐色	Cg	Vg	Cg	Vg	38.95~39.41m: 風化と変質で軟質化する。上端25°、下端30°で開き丸た39.34~39.41mの間は、傾斜20~30°や60~65°で幅1~4mmの灰白~にぶい褐色の軟質な粘土脈が多く分布する。	6 10	CL'																					
38				花崗斑岩	にぶい褐色	Bg	IVg	Bg	IVg	39.41~40.00m: 上位より割れ目が少なくなる。ほぼ未風化、未変質で硬である。 39.50m: 傾斜20°で幅2~4mmの白色変質脈を挟む。	4 10	CM'																					
39				花崗斑岩	にぶい褐色	Dg	Vg	Dg	Vg		7 10																						

第7.4.4.224図 (8) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変風	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
41				花崗斑岩	Bg	Bg	bg			40.00~40.68m: 傾斜40°~50°の割れ目がほぼ平行に分布する。風化で割れ目の一部が薄く砂状化する。幅1mm以下の軟質な灰白色粘土脈を挟むが、分布は少ない。 40.24m・40°~40.28m・45°の割れ目に囲まれて、やや軟質化する。上層割れ目はマンガン鉱染により黒褐色化する。全体に砂状~粘土土は伴わない。 40.68~41.62m: 傾斜75~85°の高角度割れ目が41.00~41.53mの間でやや湾曲しながら連続する。幅5~10mm程度の砂状~径3~5mm程度の塊状を呈する。隣接部の層に移動や回転は見られない。高角度割れ目に囲まれた区間には軟質化し、高角度割れ目の一部には幅0.5mmの軟質な灰白色粘土がわずかに付着する。高角度割れ目と斜交~直交する割れ目は傾斜20°~50°が主体で、傾斜70°前後の低角度割れ目も分布する。割れ目沿いや粘土脈は強んど分布しない。 40.95m: 傾斜45°で幅2mm程度の石英脈を挟む。白雲母が晶出する。 41.52~41.62m: 傾斜40°と85°の割れ目に囲まれて、径5~10mmの角礫状を呈する。硬質な砂状の基質中にマンガン鉱染が認められる。割れ目や角礫には挟在物が付着せず、角礫状部は連続しない。 41.62~42.37m: 傾斜40°~50°の割れ目が主体で、傾斜40°と80°前後の低角度割れ目も多い。割れ目、低角度割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。42.03mなどでは傾斜55°の割れ目沿いの一部が径3~5mmで硬質細片化する。 41.92m: 傾斜40°で幅5~6mmの石英脈が母岩に密着して連続する。脈の周辺に径0.1mmの石英脈が晶出する。	10 [10]	DL'																						
42							Bg	Bg	bg			42.37~42.61m: 低角度割れ目が細かい網状で分布し、打登で分離し易い。 42.37~42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片も径10mm前後に細片化する。岩片間に軟質の白色粘土がこくわすかに付着する。 42.43m: 傾斜60°の割れ目は、交差する42.38mの線状に左側に歪位させている。割れ目面に条線が認められる。割れ目の挟在物は不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 42.61~43.34m: 傾斜30°~50°の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。割れ目は薄く酸化褐色化するが、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化するが、劣化は伴わない。 43.29m: 傾斜55°で幅3~4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 43.34~45.00m: 岩片は硬いが、低角度割れ目が細かく分布する。割れ目は傾斜50°~70°と、これに斜交~直交する30°~60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟むものもある。 43.34m: 傾斜55°の割れ目沿いが幅2mmで砂状化し、一部で径1mmの白雲母が晶出する。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。 43.35m: 上記の割れ目と平行に幅3~5mmの石英脈が連続する。	7 [9]	CM'																				
43							Bg	Bg	bg			44.67m: 傾斜65°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めて、やや波打ちながら連続する。割れ目には挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 44.83m: 傾斜60°の割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土が付着する。	12 [12]	DL'																				
44					Cg	Cg	cg				6 [10]																							

第7.4.4.224図 (9) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	標準貫入 (N 値 ~ 深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)				
46				花崗斑岩	にぶい橙	Og	IV _E bg	bg		45.00~45.45m: 傾斜60~70°の割れ目, 低密着割れ目が主体で, これらに斜交する40~60°の割れ目, 低密着割れ目が分布する。一部の割れ目はごく薄く砂状化するが, 粘土脈は挟まない。割れ目はマンガン鉱脈で薄く黒褐色化する。 45.24m: 傾斜45°で幅2~18mmと膨縮した石英脈が連続する。上部の一部分は割れ目化, 下部は密着する。 45.45~46.06m: 傾斜70~80°とこれに斜交する40~60°の割れ目, 低密着割れ目が主体で, 特に低密着割れ目が多く, 約10~30mm間隔で分布する。割れ目には球状物は殆んど分布しない。 45.81m: 傾斜45°の割れ目は, 直交する傾斜70°の割れ目で横断される。割れ目には球状物が認められない。 46.06~46.31m: 互いに直交する傾斜50°前後の割れ目が分布する。割れ目には球状物は伴わない。 46.31~46.67m: 傾斜40~50°の割れ目, 低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し, 一部で薄く砂状化する。一部の岩片は硬質であるが, 全体にやや硬質である。 46.67~47.48m: 割れ目, 低密着割れ目とも球状物はない。46.85~47.00mに傾斜85°の低密着割れ目が分布する。	5	DL'																		
47								Rg	III _E bg			2	47.48~47.67m: 傾斜60~85°の低密着割れ目が分布し細片化する。 47.67~48.84m: 傾斜40~50°の割れ目が平行に分布し, 傾斜40~50°ないし60~70°の低密着割れ目も分布する。48.17m以上は風化で割れ目沿いの一部は砂状化する。砂や粘土脈は殆んど挟まない。 48.17m: 傾斜50°で幅5~7mmの風化した明褐色の砂を挟む。両側幅5~10mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.1mmの微細な白雲母が晶出する。 48.84~49.83m: 傾斜40~50°の割れ目, 低密着割れ目が主体で, 49.17m以上では割れ目沿いに砂状化することが多い。一部の割れ目, 低密着割れ目で幅0.5mmの軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟む。	9	DL'															
48				花崗斑岩	にぶい橙	Og	IV _E bg	bg			9	DL'																		
49								Rg	III _E bg			3	9	DL'																

第7.4.4.224図 (10) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	標準貫入 (N値~深度)	試験	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進深度 (m)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
51				花崗斑岩	暗灰黄 緑灰	Bg	IVg	bg	2	50.81m: 傾斜40°の割れ目は、交差する55°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 51.30m, 51.33m: 傾斜38°、47°の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 51.66~52.07m: 傾斜80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。 51.80m: 傾斜25°で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。 52.07~52.55m: 径10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟質な灰白~白色の粘土脈からなる変質部である。 52.07m: 傾斜45°で幅7~8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。 52.52m: 傾斜25°で幅3~5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリープ状の幅2~3mmの軟質粘土を伴う。 52.55~52.97m: 不規則な割れ目。低密着割れ目が多く、径10~30mmの岩片化す。一部に幅0.5~1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 ●52.97~53.46m: 砕砕部 52.97~53.05m: 粘土質緑状部 (Hb) 上端50°。下層50°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的であるが、連続しない。幅3mmの軟質な緑灰色粘土からなる。径1~2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05~53.10m: 粘土質緑状部 (Hb) 上端50°で直線的に連続。下層はコア擾乱部で不明瞭。径1~3mmの石英粒、径8~10mmの一部粘土化。一部硬さ1DJの岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30~40mm。 53.10~53.44m: 粘土湿り角礫状部 (Hj) 上層はコア擾乱部で不明瞭。下層45°でやや波打って連続。径5~20mmの硬さ1DJと粘土化した変質からなる。変質中には幅1~2mmの軟質な白~緑灰色粘土脈が傾斜10~50°で分布する。全体に緑灰~にふい煙~灰白色を呈する。 53.44~53.46m: 粘土質緑状部 (Hb) 上層45°でやや波打って漸移的に、下層45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白~緑灰色を呈する。幅4~12mmと膨脹する。 53.46~53.68m: 著しく軟質化する。 53.55m~55.55m: 53.67m~70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2~4mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 53.68~56.54m: 傾斜30~40°とこれらに斜交して連続する60~80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。 53.89m: 傾斜20°で幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下に幅10mmでカリ石英が環状した脈を伴う。 54.44m: 傾斜70°で幅3~8mmの方解石脈を挟む。上層個埋層は割れ目化する。下層は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 54.44~54.64m: 割れ目沿いに砂状化と径5~10mmに細片化する。																												
52				花崗斑岩	暗灰黄 緑灰	Bg	IVg	bg	2	50.81m: 傾斜40°の割れ目は、交差する55°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 51.30m, 51.33m: 傾斜38°、47°の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 51.66~52.07m: 傾斜80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。 51.80m: 傾斜25°で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。 52.07~52.55m: 径10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟質な灰白~白色の粘土脈からなる変質部である。 52.07m: 傾斜45°で幅7~8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。 52.52m: 傾斜25°で幅3~5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリープ状の幅2~3mmの軟質粘土を伴う。 52.55~52.97m: 不規則な割れ目。低密着割れ目が多く、径10~30mmの岩片化す。一部に幅0.5~1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 ●52.97~53.46m: 砕砕部 52.97~53.05m: 粘土質緑状部 (Hb) 上端50°。下層50°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的であるが、連続しない。幅3mmの軟質な緑灰色粘土からなる。径1~2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05~53.10m: 粘土質緑状部 (Hb) 上端50°で直線的に連続。下層はコア擾乱部で不明瞭。径1~3mmの石英粒、径8~10mmの一部粘土化。一部硬さ1DJの岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30~40mm。 53.10~53.44m: 粘土湿り角礫状部 (Hj) 上層はコア擾乱部で不明瞭。下層45°でやや波打って連続。径5~20mmの硬さ1DJと粘土化した変質からなる。変質中には幅1~2mmの軟質な白~緑灰色粘土脈が傾斜10~50°で分布する。全体に緑灰~にふい煙~灰白色を呈する。 53.44~53.46m: 粘土質緑状部 (Hb) 上層45°でやや波打って漸移的に、下層45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白~緑灰色を呈する。幅4~12mmと膨脹する。 53.46~53.68m: 著しく軟質化する。 53.55m~55.55m: 53.67m~70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2~4mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 53.68~56.54m: 傾斜30~40°とこれらに斜交して連続する60~80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。 53.89m: 傾斜20°で幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下に幅10mmでカリ石英が環状した脈を伴う。 54.44m: 傾斜70°で幅3~8mmの方解石脈を挟む。上層個埋層は割れ目化する。下層は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 54.44~54.64m: 割れ目沿いに砂状化と径5~10mmに細片化する。																												
53				花崗斑岩	暗灰黄 緑灰	Bg	IVg	bg	2	50.81m: 傾斜40°の割れ目は、交差する55°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 51.30m, 51.33m: 傾斜38°、47°の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 51.66~52.07m: 傾斜80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。 51.80m: 傾斜25°で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。 52.07~52.55m: 径10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟質な灰白~白色の粘土脈からなる変質部である。 52.07m: 傾斜45°で幅7~8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。 52.52m: 傾斜25°で幅3~5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリープ状の幅2~3mmの軟質粘土を伴う。 52.55~52.97m: 不規則な割れ目。低密着割れ目が多く、径10~30mmの岩片化す。一部に幅0.5~1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 ●52.97~53.46m: 砕砕部 52.97~53.05m: 粘土質緑状部 (Hb) 上端50°。下層50°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的であるが、連続しない。幅3mmの軟質な緑灰色粘土からなる。径1~2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05~53.10m: 粘土質緑状部 (Hb) 上端50°で直線的に連続。下層はコア擾乱部で不明瞭。径1~3mmの石英粒、径8~10mmの一部粘土化。一部硬さ1DJの岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30~40mm。 53.10~53.44m: 粘土湿り角礫状部 (Hj) 上層はコア擾乱部で不明瞭。下層45°でやや波打って連続。径5~20mmの硬さ1DJと粘土化した変質からなる。変質中には幅1~2mmの軟質な白~緑灰色粘土脈が傾斜10~50°で分布する。全体に緑灰~にふい煙~灰白色を呈する。 53.44~53.46m: 粘土質緑状部 (Hb) 上層45°でやや波打って漸移的に、下層45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白~緑灰色を呈する。幅4~12mmと膨脹する。 53.46~53.68m: 著しく軟質化する。 53.55m~55.55m: 53.67m~70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2~4mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 53.68~56.54m: 傾斜30~40°とこれらに斜交して連続する60~80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。 53.89m: 傾斜20°で幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下に幅10mmでカリ石英が環状した脈を伴う。 54.44m: 傾斜70°で幅3~8mmの方解石脈を挟む。上層個埋層は割れ目化する。下層は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 54.44~54.64m: 割れ目沿いに砂状化と径5~10mmに細片化する。																												
54				花崗斑岩	暗灰黄 緑灰	Bg	IVg	bg	2	50.81m: 傾斜40°の割れ目は、交差する55°の割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 51.30m, 51.33m: 傾斜38°、47°の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。 51.66~52.07m: 傾斜80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。 51.80m: 傾斜25°で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。 52.07~52.55m: 径10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟質な灰白~白色の粘土脈からなる変質部である。 52.07m: 傾斜45°で幅7~8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。 52.52m: 傾斜25°で幅3~5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリープ状の幅2~3mmの軟質粘土を伴う。 52.55~52.97m: 不規則な割れ目。低密着割れ目が多く、径10~30mmの岩片化す。一部に幅0.5~1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 ●52.97~53.46m: 砕砕部 52.97~53.05m: 粘土質緑状部 (Hb) 上端50°。下層50°とともに直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅40mm。 53.05m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜45°で直線的であるが、連続しない。幅3mmの軟質な緑灰色粘土からなる。径1~2mmの石英粒を少量含む。周囲との境界は漸移的である。 53.05~53.10m: 粘土質緑状部 (Hb) 上端50°で直線的に連続。下層はコア擾乱部で不明瞭。径1~3mmの石英粒、径8~10mmの一部粘土化。一部硬さ1DJの岩片を多く含む。灰白色を呈する。幅30~40mm。 53.10~53.44m: 粘土湿り角礫状部 (Hj) 上層はコア擾乱部で不明瞭。下層45°でやや波打って連続。径5~20mmの硬さ1DJと粘土化した変質からなる。変質中には幅1~2mmの軟質な白~緑灰色粘土脈が傾斜10~50°で分布する。全体に緑灰~にふい煙~灰白色を呈する。 53.44~53.46m: 粘土質緑状部 (Hb) 上層45°でやや波打って漸移的に、下層45°で直線的にシャープに連続。径1mmの石英粒と径3mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を少量含む。やや軟質。灰白~緑灰色を呈する。幅4~12mmと膨脹する。 53.46~53.68m: 著しく軟質化する。 53.55m~55.55m: 53.67m~70°の各割れ目に各々幅1mm、幅2~4mmの軟質な緑灰色粘土脈を挟む。 53.68~56.54m: 傾斜30~40°とこれらに斜交して連続する60~80°の割れ目と低密着割れ目が細かく分布する。 53.89m: 傾斜20°で幅1~2mmの白色鉱物脈を挟み、その下に幅10mmでカリ石英が環状した脈を伴う。 54.44m: 傾斜70°で幅3~8mmの方解石脈を挟む。上層個埋層は割れ目化する。下層は母岩に密着しており、54.44mで傾斜65°の割れ目を横断し、割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 54.44~54.64m: 割れ目沿いに砂状化と径5~10mmに細片化する。																												

第7.4.4.224図 (11) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変風	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘進深度 (m)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)						
56			+++++	花崗斑岩	明褐灰	Dg			3	55.07m: 傾斜55°で幅1mmの暗灰色粘土を挟む。 55.41m以深では割れ目沿いに砂状化することが多く、一部の割れ目に幅1mm程度の軟質～やや硬質な白色粘土が付着するが、粘土脈としては連続しない。 55.41m: 傾斜55°の割れ目で、上端側の20°の割れ目、下端側の80°の割れ目が止まっている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 55.80m: 傾斜60°で幅1mm以下の暗灰色粘土と幅0~3mmの不連続な方解石脈を挟む。 56.16m・50° ~ 56.23m・50°の割れ目に囲まれてやや軟質化する。	4 (0)	DL'																					
57			+++++	花崗斑岩	灰褐	Bg IVg bg			3	56.54~56.57m: 凝灰部上端60°で連続的にシャープであるが、浅部延長部で70~90°で大きく湾曲、下端60°で1箇所屈曲してシャープに連続する。径1mm前後の石英細と径5~10mmの粘土化した岩片を多く含む。軟質な白色の粘土質凝灰部で全体の色調は灰白~明褐色で斑模様を呈する。幅10~15mmで、浅部側の56.52m付近で挟在する粘土脈は2つに分岐する。 56.57~57.53m: 傾斜50~60°とこれと斜交する20~60°の割れ目が主体である。割れ目には砂、粘土など挟在物はない。一部で割れ目と同傾斜の低密着割れ目も分布する。	12 [12]	DL'																					
58			+++++	花崗斑岩	灰褐	Bg IVg bg			2	57.63~57.75m: 傾斜50~60°の割れ目、低密着割れ目が9~10mm間隔で平行に分布し軟質化する。 57.75~58.37m: 割れ目は少ないが、主に58.00~58.15m間に傾斜40~50°の低密着割れ目が多い。砂、粘土の挟在物はない。57.90~58.37m間に傾斜80~90°の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部の一部は径3~5mmに細片化する。	6 (0)	CM'																					
59			+++++	花崗斑岩	明褐灰	Bg IVg bg			3	58.37~58.85m: 傾斜20~30°の割れ目と80~90°の割れ目が交差し、交差部の一部はごく薄く砂状化したり、径5mm前後に細片化する。粘土は挟まない。 58.85~58.96m: 傾斜50°の割れ目が主体である。 58.85m: 傾斜50°の割れ目は連続的にシャープに連続し、面には条線が扁平化した細岩片と岩片間を埋める明褐色の軟質粘土からなる粘土混じり岩片状部が幅10mmで見られるが不連続で、周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 58.96~59.47m: 傾斜50~70°の割れ目が主体である。割れ目の挟在物はない。 59.16m: 傾斜45°の割れ目の下端側幅約30mmは細粒花崗岩を呈するが、花崗斑岩との境界は漸移的である。 59.47~60.06m: 傾斜30~50°の割れ目、低密着割れ目に幅1mm前後の軟質な白色粘土脈を多く挟む。網目状に石英脈を挟む。	9 (0)	DL'																					

第7.4.4.224図 (12) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬さ	割れ目の形状	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N値~深さ) 試験 図	原位置試験 (孔内水位観測)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN/MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
61					灰褐	Cg, Eg, Dg, Eg	3		63.03~63.04m: 傾斜40°で幅8mmの灰色の石英脈を挟む。 63.21m: 傾斜45°で幅1~3mmの灰色粘土脈を挟む。 63.29~63.67m: 上位よりも著しく軟質化し、径10mm前後の岩片間に幅1~2mmの軟質な白色粘土が網目状に分布する。 63.49m: 傾斜55°の割れ目で多数の幅1~2mmの軟質な白色粘土脈が止まっている。割れ目には幅0~1mmの暗灰色粘土を伴う。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 ●63.67~63.90m: 破砕部 63.67~63.83m: 粘土混じり岩片状部 (H1) 63.83~63.88m: 粘土質礫状部 (Hb) 63.88~63.90m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜70°で直線的にシャープに連続する幅5~10mmの硬質な赤灰色粘土がみられる。径1mm前後の石英粒をわずかに含む。 63.90~64.05m: 硬さ「D」の径5~20mmの花崗斑岩の岩片と粘土化で著しく軟質化した基質からなる。64.05mの傾斜70°の直線的でシャープな割れ目以下位と推される。 64.05~64.57m: 一部に硬さ「C」を言むが、硬さ「B」の岩片が主体である。互いに交差する傾斜70°前後の割れ目、低侵着割れ目が主体で、交差部の一部で径10~20mmの岩片に細片化する。割れ目に挟在物は分布しない。 64.57~65.06m: 傾斜10~30°の割れ目が主体で、同傾斜の低侵着割れ目も分布する。 64.83m: 傾斜60°で幅1mmの硬質な緑灰色粘土脈を挟む。																					
62				花崗斑岩	明褐灰 緑灰	Dg, Eg, Dg, Eg, Dg, Eg	3																							
63					灰褐	Eg, Dg																								
64					灰褐	Bg, IVg																								

第7.4.4.224図 (14) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定日	(N) 値	(N値~深度) 試験	原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進深度 (m)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN, MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
66				花崗斑岩	灰褐色	IVg, Bg, Vg, Cg, Eg, Dg, Vg, Cg	IVg, Bg, Vg, Cg, Eg, Dg, Vg, Cg	bg	2	65.06~66.65m: 傾斜30~60°とこれらに斜交~直交する40~80°の割れ目が主体で、割れ目は直線的にシヤブではなく波打ちながら不規則に連続するものが多い。砂状部や粘土部などは挟まないが、割れ目沿いに径5mm前後に細片化することがある。65.09m・50°、65.31m・60°の各割れ目沿いに、各々幅5~20mm、幅5mmが緑灰色化し、径0.5mm以下の微小な黄鉄鉱が少量晶出する。	5 (0)	CM																			
67				花崗斑岩	明褐色	Cg, Eg, Dg, Vg, Cg	Cg, Eg, Dg, Vg, Cg		3	66.50~66.65m: 傾斜55~60°の割れ目がほぼ平行に5~20mm間隔で分布する。粘土は挟まない。 66.64m: 傾斜65°の割れ目沿いに幅5mmで緑泥石化により淡緑灰色化し、幅0.5mmの黄鉄鉱脈を伴う。 66.65~66.85m: 変質部主として変質により著しく軟質化する。上端は傾斜65°の割れ目で直線的でシヤブに上位の岩盤と接するが、下端は漸移的である。径5~20mmの硬さ「D」~粘土化した岩片と粘土化した基盤からなる。基盤中には所々に幅1~2mmの軟質な粘土脈が分布する。 66.85~67.88m: 割れ目は一部が消滅、一部は傾斜60~70°が主体で残留する。同傾斜の低密度割れ目も多く分布する。割れ目の一部に幅1~3mmの軟質な白~暗緑灰色の粘土脈が分布する。	4 (0)																				
68				花崗斑岩	明褐色	Cg, Eg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg	Cg, Eg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg		γ	67.88m: 傾斜65°の割れ目は、交差する60~70°の低密度割れ目を多数止めているように見える。割れ目には挟在物が認められるが、割れ目の凹凸が著しい。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、糸織的な割れ目も存在しない。 67.88~67.98m: 上端65°、下端55°の割れ目で囲まれ、変質と風化で著しく軟質化する。せん断面は分布しない。 67.98~70.00m: 傾斜50~70°の割れ目、低密度割れ目が主体で、割れ目の一部は砂状化~径5mm前後に細片化するが、全体に粘土化は殆んどしていない。69.80m以深には、幅1mm以下の軟質な白色粘土脈が少量分布する。また、68.32m、68.57m、68.84mには、傾斜40~70°で幅1~3mmの軟質な暗緑灰色粘土を挟む。	2 (0)																				
69				花崗斑岩	灰褐色	Cg, Dg, Cg, Dg	Cg, Dg, Cg, Dg		2	69.52m・70°、69.75m・70°の割れ目は、交差する多数の割れ目を止められている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、糸織的な割れ目も存在しない。	5 (0)																				

第7.4.4.224図 (15) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)



第7.4.4.224図 (16) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)



第7.4.4.224図 (17) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

孔番 D1-4 孔

深度 36.00m ~ 54.00m



第7.4.4.224図 (18) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)



第7.4.4.224図 (19) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	試験	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
6				盛土	にぶい黄橙																												
7				盛土	にぶい黄橙																												
8	2.27	7.41		花崗斑岩	にぶい橙	Vg cg			3	7.41~54.00m: 花崗斑岩 径1~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。19m以深は斑晶の量が少なくアブライト様を呈する部分もある。 7.41~8.51m: 風化で著しく軟質化するが、原岩組織はほぼ残留し、割れ目は一部で消滅し消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目周辺の幅5~10mmが橙化する。長石斑晶は粘土化して白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土脈は殆んど分布しない。上端には幅1cm程度のモルタルが付着する。 7.45m: 傾斜40°の割れ目は、交差する傾斜53°で幅2mmの石英脈を止めている。割れ目には球状物が認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 7.89m: 傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で橙化する。 8.03~8.08m: マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。 8.48m: 傾斜45°で幅5~10mmの緑泥石化により緑灰色化する。粘土化は伴わない。 ●8.51~8.71m: 破砕部 (HJ) 8.51~8.66m: 粘土混しり岩片状部 (HJ) 上端55°でほぼ直線的にシャープに下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片面を網状に分布する幅1~2mmの軟質な淡黄色粘土脈からなる。8.51~8.54mは粘土分が多い。淡黄~にぶい橙色を呈する。 8.66~8.69m: 粘土質膠状部 (H) 上端50°でやや不明瞭に、下端60°でやや波打って連続。径2~3mmの石英と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅25~30mm。 8.69~8.70m: 粘土状部 (Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3~8mm。 8.70~8.71m: 粘土質膠状部 (H) 上端60°で直線的に、下端65°でほぼ直線的にシャープに連続。径1~2mmの石英粒と径3~5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄褐色を呈する。幅3~10mm。 8.71~10.19m: 著しく軟質化し、原岩組織は一部で残留するが、割れ目は大半が消滅する。9.50~10.19mでは傾斜30~40°とこれに斜交~直交する傾斜50~70°の割れ目の一部が残留する。	2 (0)																						
9				花崗斑岩	にぶい黄橙	Eg	Vg dg	3			2 (0)																						

第7.4.4.225図 (2) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	採取率 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験 図	原位試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
11				花崗斑岩	にふい黄橙	Eg, Dg, Cg, Vg	Vg, Dg, Cg, Vg	dg, Vg, Cg, Vg, dg	3, 4	<p>●10.19~10.21m: 破砕部 (H-3d破砕帯)</p> <p>10.19~10.20m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端27' で直線的にシャープに、下端36' でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~10mm。</p> <p>10.20~10.21m: 粘土状部 (Hc-1) 上端36' でやや波打って、下端40' で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部側でにふい黄色を呈する。幅4~6mm。</p> <p>10.21~10.45m: 消滅した割れ目が多いが、傾斜60~70° の割れ目と垂直割れ目の一部が残置し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。</p> <p>10.37m: 傾斜65° の割れ目を薄に色調がにふい橙色から褐色に変わり岩片も硬さ「D」が多くなり、粘土脈は分布しなくなる。割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上部側幅約5mmはマンガン鉱染により黒褐色化する。</p> <p>●10.45~10.50m: 破砕部 (H-4' 破砕帯)</p> <p>10.45m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜30° で直線的にシャープに連続する幅1mm以下の軟質な白色粘土。</p> <p>10.45~10.50m: 粘土質礫状部 (Hb) 上端30' で直線的にシャープに、下端40' で一部で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒と長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化した花崗斑岩の塊を多く含む。軟質。灰白~にふい橙色を呈する。幅40~45mm。</p> <p>10.50~12.00m: 原岩組織と割れ目は明瞭に残留する。傾斜40~60° の割れ目が破砕部とほぼ平行に分布する。割れ目沿いに砂状化し、幅0.5mm前後の軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。</p> <p>11.10~11.11m, 11.90~11.95m: 傾斜45~50° の割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。</p> <p>12.00~12.61m: 傾斜50~60° の割れ目が数本分布するのみであるが、不規則状に低密度割れ目を若干含んでおり、打撃で径5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目沿いの砂状化や粘土脈の存在は少ない。</p> <p>12.61~14.19m: 傾斜40~60° の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40° の割れ目も多い。13.86~14.19mには傾斜80~85° の2本の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部では砂状化~径5~10mmに細片化する。粘土脈は挟まない。</p> <p>14.19~16.18m: 割れ目は傾斜50° 以下が多く、割れ目は酸化で褐色化するが、砂や粘土などの塊在物は少ない。15.53~15.92mは風化で表面が褐色化するが、劣化は少ない。15.40~15.65mに傾斜10~30° の、15.10~15.40mに傾斜85~90° の低密度割れ目が分布する。</p>	5, 0, 5, 0, 11, [11], 4, 0, 14, [48]	D', D1', CM, CH																
12				花崗斑岩	明褐色	Cg, Vg	Vg, Dg, Cg, Vg	cg, Vg, dg	3																			
13				花崗斑岩	明褐色	Cg, Vg	Vg, Dg, Cg, Vg	cg, Vg, dg	3																			
14				花崗斑岩	明褐色	Cg, Vg	Vg, Dg, Cg, Vg	cg, Vg, dg	3																			

第7.4.4.225図 (3) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位(m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)		
16				花崗斑岩	褐灰	Bg	IIε	bg γ		16.18~16.72m: 上位より若干風化が進み、割れ目沿いの一部やコア表面の一部が砂状化する。傾斜50°~60°の割れ目が主体である。粘土脈は挟まない。	22	CH																
17					明褐灰	Og	Bg	IIIε	δ		16.72~17.14m: 傾斜40°~50°の割れ目が平行に分布し、割れ目沿いの砂状化はなく、粘土脈も挟まない。17.07mに傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかに径0.1mmの微細な金属鉱物がみだす。17.07m: 傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈を採み、径0.1mmの微細な金属鉱物がみだす。17.14~18.17m: 上位よりも若干風化が進み、割れ目の一部で砂状化~径3mm前後で細片化する。粘土脈の存在は少ない。傾斜30°~50°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50°~70°の割れ目も分布する。18.05~18.09m間は割れ目の褐色化が進む。	11	CM															
18				花崗斑岩	明褐灰	Dg	δ			18.17~18.64m: 風化で軟質化する。割れ目は一部で消滅するが、傾斜40°~50°の割れ目や低密度割れ目の一部が残留する。割れ目の一部は砂状化~後5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28mの傾斜35°の消滅しかかいた割れ目に幅0.5mmで軟質な白色粘土が分布するのみで、他の割れ目には分布しない。	8	CL																
19					明褐灰	Eg	Dg	δ			18.64~18.78m: 傾斜35°で傾斜3~4mmの軟質な灰褐色粘土脈が連続してシグナールに連続する。その上端側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土脈が平行に分布する。	12																

第7.4.4.225図 (4) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	変風	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水位観測)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)								
21			+++++	明礬灰	Bg, Dg, Cg	IVg	IVg	γ, δ, eg		20.10~20.46m: 傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の存在は殆んどない。 20.11m: 傾斜60°の割れ目はマンガン鉱床を穿け、黒褐色化する。 20.46~20.85m: 一部に硬質部を含むが、全体にやや硬質である。傾斜50~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟質な白~浅黄色の粘土脈を挟むことが多い。 20.65m~20.80m: 割れ目はマンガン鉱床で黒褐色化する。 20.85~21.43m: 傾斜20~30°とこれに斜交する50~60°の割れ目が主体で、一部で同傾斜の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが、劣化はない。割れ目の存在物も見られない。 21.06m・30°と21.15m・50°の各割れ目はマンガン鉱床で黒褐色化する。 21.33m: 傾斜60°の割れ目は、交差する傾斜20°の割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断する。割れ目には存在物が認められない。割れ目周辺の岩層には脆岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 21.43~21.50m: 傾斜20~30°と50~60°の割れ目が5~10cm間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの軟質な白色粘土がわずかに付着する。 21.50~21.81m: わずかに低密着割れ目が分布する。 21.81~22.43m: 傾斜10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50°の割れ目には幅1~2mmの軟質な白色粘土などの存在物が分布するが、全体的には割れ目に存在物は分布しない。 22.10m: 傾斜70°の割れ目沿いは砂状化する。 22.20m: 傾斜80°で幅2~3mmのカリ長石の集積部の脈が分布する。 22.36m: 傾斜50°で幅1~2mmの軟質な白色粘土を挟む。 22.43~22.91m: 傾斜45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。 22.52~22.55m: 傾斜15~20°の割れ目沿いが径10mm前後で細片化する。 22.56m: 傾斜58°で幅1mmの石英脈が母岩に膠着して分布する。 22.81~22.91m: 割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。 22.91~22.94m: 傾斜50~55°の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm・長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。 22.94~23.60m: 傾斜20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目の存在物は少ない。 23.48m以深はコア表面は風化で腐蝕に乏しい褐色を帯びる。 23.60~23.96m: 傾斜30~45°と、これに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。 23.96~24.47m: 割れ目が少なく、上端と24.26mに傾斜40~50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に存在物は分布しない。																								
22			+++++	花崗斑岩	Bg	IVg	IVg	γ		22.47~25.80m: 傾斜30~50°の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。																								
23			+++++	花崗斑岩	Bg	IIIg	IIIg	bg																										
24			+++++	花崗斑岩	Bg	IVg	IVg																											

第7.4.4.225図 (5) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値 (N値~深度) 図 (標準貫入) 試験	原位置試験 (孔内歪曲)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (KN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)			
26			+			IV _E	IV _E	bg		25.30~25.32m: 傾斜45°で幅10mm程度が砂状~径5mmに細片化する。	13 [133]	GM'																
27			+		匹襖	IV _E III _E IV _E III _E IV _E III _E IV _E III _E	IV _E III _E IV _E III _E IV _E III _E	og		25.80~26.95m: 傾斜30~50°の割れ目とわずかな低密度割れ目がほぼ平行に10~15cm間隔が主体で分布する。一部でこれらと斜交~直交する10~50°の割れ目も分布し、26.41m~28.47mでは両系統の割れ目が交差し、径20~30mmの硬質岩片に細片化するが、コア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	1 [22]	GM'																
28			+	花崗斑岩		Bg	IV _E III _E IV _E III _E IV _E III _E IV _E III _E	bg	γ 2	26.95~27.20m: 割れ目間隔3~10cmで割れ目がやや多いが、割れ目の挟在物は分布しない。 27.20~28.48m: コア長20cm以上、傾斜10~10°の割れ目が主体で、挟在物は分布しない。	42 [82]	GM'																
29			+		にふい橙	IV _E III _E IV _E III _E IV _E III _E IV _E III _E	IV _E III _E IV _E III _E IV _E III _E			28.48~30.20m: 傾斜40~50°の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。一部の割れ目や割れ目周囲は風化で褐色化し、コア表面はにふい橙色を呈するが、砂状化などの劣化は伴わず、粘土や粘土脈も存在しない。所々、マンガン脈染で黒褐色化する。 29.20m以降では、一部に傾斜40~50°とこれらに斜交~直交する低密度割れ目も含み、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。	24 [88]	GM'																

第7.4.4.225図 (6) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟		割れ目の形状	風変質	記 事	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	試験		室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
						Ⅳε	Ⅲε				(N)	(N値~深度)			(N)	(N値~深度)																
— 31				花崗斑岩	にぶい橙	Bg	Ⅳε	Bg	γ	<p>30.20~30.35m: 傾斜30~40°の割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土脈は分布しない。</p> <p>30.57~30.77m: 傾斜20~40°の割れ目が分布するが、割れ目は少ない。割れ目に挟在物は分布しない。</p> <p>30.77~31.57m: 風化でやや軟質化する。傾斜30~50°の割れ目と一部でこれらに斜交し、直交する30~50°の割れ目も分布する。また、同傾斜の低密度割れ目も31.40~31.57mに多く分布する。割れ目沿いに薄く砂状化分することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。</p> <p>31.06m: 傾斜50°で幅1~2mmの風化して軟質な黄褐色粘土脈を挟む。</p> <p>31.42m・35°、31.52m・45°の各割れ目の下端側は幅12mm、幅30mmで砂状化する。</p> <p>31.44m: 傾斜40°の割れ目の下端側幅10~20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。</p> <p>31.57~32.68m: 傾斜30~50°の割れ目を主株とする。</p>	2	300	CM'																			
— 32								明礬灰	Dg		Ⅳε	Dg	δ	<p>32.14m: 傾斜50°の割れ目沿いに幅2~4mmが砂状化~径2~3mmに細片化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。</p> <p>32.68~32.76m: 上下端を傾斜45°の割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟質な明黄褐色粘土を伴うが、粘土は連続しない。</p> <p>32.76~32.96m: 割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部これに斜交し、直交する10~40°の割れ目も分布する。また、同傾斜の低密度割れ目も3.40~33.60mに多く分布する。</p>	7	10	CL'															
— 33								明礬灰	Cg		Ⅳε	Cg	γ		<p>33.80m: 傾斜50°の割れ目は、交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>33.86m: 傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。</p> <p>33.96m: 傾斜55°の割れ目の上端側は幅10~20mmで弱くマンガン鉱染を受け、下端側はやや軟質化する。</p> <p>33.96~35.08m: 風化で、多くの割れ目沿いは砂状化し、幅1mm前後の軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明確に残留する。傾斜20~40°の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.08mに傾斜50°で幅4mmの軟質な明赤灰色の粘土脈を挟む。</p>	10	10	CM'														
— 34					明礬灰	Dg	Ⅳε	Dg	δ	<p>33.80m: 傾斜50°の割れ目は、交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>33.86m: 傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。</p> <p>33.96m: 傾斜55°の割れ目の上端側は幅10~20mmで弱くマンガン鉱染を受け、下端側はやや軟質化する。</p> <p>33.96~35.08m: 風化で、多くの割れ目沿いは砂状化し、幅1mm前後の軟質な白~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明確に残留する。傾斜20~40°の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.08mに傾斜50°で幅4mmの軟質な明赤灰色の粘土脈を挟む。</p>	13	25	CL'																			

第7.4.4.225図 (7) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変質	記	コア採取率 → (%) ← 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N) 値	試験 (N 値 ~ 深度) 図	原位試験 (孔内水位 観測)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)									
41			+++++	花崗閃岩	にふい橙	Og IVg Eg Vg Dg	IVg eg Vg	γ δ	2 3	40.12m: 傾斜57°の割れ目は、交差する傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目に充填物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 40.23m: 傾斜54°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 40.73~40.85m: 上端55°、下端60°の割れ目に囲まれて砂状化~マンガン汚染を伴う塊状化を呈する。割れ目方向に幅2~3mmの軟質な灰白~灰赤色の粘土脈を伴う。 40.85~41.08m: 傾斜50~60°の割れ目が10~30mm間隔で平行に分布する。割れ目沿いに風化が進み、全体が軟質化する。一部でマンガン脈染を伴う。 41.08~41.49m: 傾斜10~30°の割れ目と一部で同傾斜の低密度割れ目が分布する。両者とも充填物は挟まない。 41.49~42.22m: 傾斜10~30°の割れ目や低密度割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°のものも分布する。交差部のうち、42.15m付近では径5~10mmに細片化する。 42.05m以深では幅1mm以下の軟質な白色粘土脈を挟む。 42.23~42.74m: 幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布する。コア自身も一部強化し硬質化する。傾斜50~60°の割れ目が平行に分布し、マンガン汚染が目立つ。 42.52m: 傾斜55°の割れ目の一部が幅2~4mmで砂状、ないし、径2~3mmに細片化する。粘土は挟まないが、マンガン脈染で一部黒褐色化する。 42.74~43.25m: 風化で割れ目の一部は消滅しないし消滅しかかっている。残留する割れ目は傾斜50~60°が主体である。42.85mに傾斜40°、43.21mに傾斜30°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 43.03m: 傾斜64°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。 43.03~43.15m: 微細な割れ目にマンガン汚染を伴う。 43.25~45.09m: 風化と変質で著しく軟質化するが、部分的に硬さ「D」の岩片が残留する。原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅する。所々、幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を脈状、ないし、網状に含む。 43.58~43.76m: マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化する。 43.80m: 傾斜60°の割れ目は、上端側に分布する複数の粘土脈を止めている。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 44.30~44.94m: 硬さ「D」の岩片を多く含む。	11 [11]																								
42			+++++	花崗閃岩	明橙灰	Og Vg Dg	eg IVg Dg	γ	2	42.05m以深では幅1mm以下の軟質な白色粘土脈を挟む。 42.23~42.74m: 幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布する。コア自身も一部強化し硬質化する。傾斜50~60°の割れ目が平行に分布し、マンガン汚染が目立つ。 42.52m: 傾斜55°の割れ目の一部が幅2~4mmで砂状、ないし、径2~3mmに細片化する。粘土は挟まないが、マンガン脈染で一部黒褐色化する。 42.74~43.25m: 風化で割れ目の一部は消滅しないし消滅しかかかっている。残留する割れ目は傾斜50~60°が主体である。42.85mに傾斜40°、43.21mに傾斜30°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 43.03m: 傾斜64°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。 43.03~43.15m: 微細な割れ目にマンガン汚染を伴う。 43.25~45.09m: 風化と変質で著しく軟質化するが、部分的に硬さ「D」の岩片が残留する。原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅する。所々、幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を脈状、ないし、網状に含む。 43.58~43.76m: マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化する。 43.80m: 傾斜60°の割れ目は、上端側に分布する複数の粘土脈を止めている。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 44.30~44.94m: 硬さ「D」の岩片を多く含む。	13 [13]																								
43			+++++	花崗閃岩	にふい橙	Og Vg Dg	eg IVg Dg	δ	3	42.05m以深では幅1mm以下の軟質な白色粘土脈を挟む。 42.23~42.74m: 幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布する。コア自身も一部強化し硬質化する。傾斜50~60°の割れ目が平行に分布し、マンガン汚染が目立つ。 42.52m: 傾斜55°の割れ目の一部が幅2~4mmで砂状、ないし、径2~3mmに細片化する。粘土は挟まないが、マンガン脈染で一部黒褐色化する。 42.74~43.25m: 風化で割れ目の一部は消滅しないし消滅しかかかっている。残留する割れ目は傾斜50~60°が主体である。42.85mに傾斜40°、43.21mに傾斜30°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 43.03m: 傾斜64°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。 43.03~43.15m: 微細な割れ目にマンガン汚染を伴う。 43.25~45.09m: 風化と変質で著しく軟質化するが、部分的に硬さ「D」の岩片が残留する。原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅する。所々、幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を脈状、ないし、網状に含む。 43.58~43.76m: マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化する。 43.80m: 傾斜60°の割れ目は、上端側に分布する複数の粘土脈を止めている。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 44.30~44.94m: 硬さ「D」の岩片を多く含む。	2 [2]																								
44			+++++	花崗閃岩	にふい橙	Og Vg Dg	eg IVg Dg	δ	4	42.05m以深では幅1mm以下の軟質な白色粘土脈を挟む。 42.23~42.74m: 幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布する。コア自身も一部強化し硬質化する。傾斜50~60°の割れ目が平行に分布し、マンガン汚染が目立つ。 42.52m: 傾斜55°の割れ目の一部が幅2~4mmで砂状、ないし、径2~3mmに細片化する。粘土は挟まないが、マンガン脈染で一部黒褐色化する。 42.74~43.25m: 風化で割れ目の一部は消滅しないし消滅しかかかっている。残留する割れ目は傾斜50~60°が主体である。42.85mに傾斜40°、43.21mに傾斜30°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。 43.03m: 傾斜64°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。 43.03~43.15m: 微細な割れ目にマンガン汚染を伴う。 43.25~45.09m: 風化と変質で著しく軟質化するが、部分的に硬さ「D」の岩片が残留する。原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅する。所々、幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を脈状、ないし、網状に含む。 43.58~43.76m: マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化する。 43.80m: 傾斜60°の割れ目は、上端側に分布する複数の粘土脈を止めている。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 44.30~44.94m: 硬さ「D」の岩片を多く含む。	1 [1]																								

第7.4.4.225図 (9) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	標準貫入 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
46				花崗斑岩	明褐色	Dg, Eg, Vg, IVg	Vg, Dg	cg, dg		4	45.09~45.82m: 風化で軟質化する。割れ目割れ目自体で、割れ目沿いに砂状化する。粘土層は少ない。 45.54m: 傾斜55°で幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。 45.82~45.89m: 上端55°、下端55°の直線的にシヤープな割れ目に囲まれ、灰白色粘土と径5~10mmの岩の岩片からなる粘土混じり岩片状の硬質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。 45.89~47.47m: 風化により一部の割れ目は消滅しないし、消滅しかつている。残留する割れ目は傾斜60~70°が主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン藍染を受ける。 47.20m: 傾斜50°の割れ目は幅4~7mmで径2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。 47.20m以深では、傾斜50°前後の割れ目や低密着割れ目が1~2cm間隔で分布し、その殆んどに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。 ●47.47~47.89m: 破砕部 (D-I破砕帯) 47.47~47.48m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜65°で直線的にシヤープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3~6mm。 47.48~47.66m: 粘土質硬状部 (Hb) 上端65°で直線的にシヤープに連続。下端は不明瞭で漸移的である。径2~3mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン藍染で黒褐色化する。幅67mm (63°)。 47.66~47.86m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシヤープに連続。径10~40mmの一部粘土化。一部硬さ「E」ないし「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン藍染で黒褐色化する。全体は灰黄~灰白色を呈する。幅90mm (63°)。 47.86~47.89m: 粘土質硬状部 (Hb) 上端63°、下端60°、でも直線的にシヤープに連続。径2~10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。 47.89~48.30m: 風化で割れ目の一部は消滅しないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色を呈しない。淡黄色のや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン藍染を受け、黒褐色化する。 48.30~48.61m: 傾斜40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mでは径5~10mmの岩片に細片化する。割れ目沿いの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。 49.38~52.75m: 傾斜50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。	3 (0), 4 (0)	D', CL', D', CL', CM'																							
47				花崗斑岩	明褐色	Dg, Eg, Vg, IVg	Vg, Dg	cg, dg		4	45.09~45.82m: 風化で軟質化する。割れ目割れ目自体で、割れ目沿いに砂状化する。粘土層は少ない。 45.54m: 傾斜55°で幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。 45.82~45.89m: 上端55°、下端55°の直線的にシヤープな割れ目に囲まれ、灰白色粘土と径5~10mmの岩の岩片からなる粘土混じり岩片状の硬質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。 45.89~47.47m: 風化により一部の割れ目は消滅しないし、消滅しかつている。残留する割れ目は傾斜60~70°が主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン藍染を受ける。 47.20m: 傾斜50°の割れ目は幅4~7mmで径2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。 47.20m以深では、傾斜50°前後の割れ目や低密着割れ目が1~2cm間隔で分布し、その殆んどに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。 ●47.47~47.89m: 破砕部 (D-I破砕帯) 47.47~47.48m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜65°で直線的にシヤープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3~6mm。 47.48~47.66m: 粘土質硬状部 (Hb) 上端65°で直線的にシヤープに連続。下端は不明瞭で漸移的である。径2~3mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン藍染で黒褐色化する。幅67mm (63°)。 47.66~47.86m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシヤープに連続。径10~40mmの一部粘土化。一部硬さ「E」ないし「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン藍染で黒褐色化する。全体は灰黄~灰白色を呈する。幅90mm (63°)。 47.86~47.89m: 粘土質硬状部 (Hb) 上端63°、下端60°、でも直線的にシヤープに連続。径2~10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。 47.89~48.30m: 風化で割れ目の一部は消滅しないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色を呈しない。淡黄色のや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン藍染を受け、黒褐色化する。 48.30~48.61m: 傾斜40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mでは径5~10mmの岩片に細片化する。割れ目沿いの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。 49.38~52.75m: 傾斜50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。	3 (0), 4 (0)	D', CL', D', CL', CM'																							
48				花崗斑岩	灰黄	Dg, Eg, Vg, IVg	Vg, Dg	cg, dg		4	45.09~45.82m: 風化で軟質化する。割れ目割れ目自体で、割れ目沿いに砂状化する。粘土層は少ない。 45.54m: 傾斜55°で幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。 45.82~45.89m: 上端55°、下端55°の直線的にシヤープな割れ目に囲まれ、灰白色粘土と径5~10mmの岩の岩片からなる粘土混じり岩片状の硬質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。 45.89~47.47m: 風化により一部の割れ目は消滅しないし、消滅しかつている。残留する割れ目は傾斜60~70°が主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン藍染を受ける。 47.20m: 傾斜50°の割れ目は幅4~7mmで径2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。 47.20m以深では、傾斜50°前後の割れ目や低密着割れ目が1~2cm間隔で分布し、その殆んどに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。 ●47.47~47.89m: 破砕部 (D-I破砕帯) 47.47~47.48m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜65°で直線的にシヤープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3~6mm。 47.48~47.66m: 粘土質硬状部 (Hb) 上端65°で直線的にシヤープに連続。下端は不明瞭で漸移的である。径2~3mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン藍染で黒褐色化する。幅67mm (63°)。 47.66~47.86m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシヤープに連続。径10~40mmの一部粘土化。一部硬さ「E」ないし「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン藍染で黒褐色化する。全体は灰黄~灰白色を呈する。幅90mm (63°)。 47.86~47.89m: 粘土質硬状部 (Hb) 上端63°、下端60°、でも直線的にシヤープに連続。径2~10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。 47.89~48.30m: 風化で割れ目の一部は消滅しないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色を呈しない。淡黄色のや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン藍染を受け、黒褐色化する。 48.30~48.61m: 傾斜40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mでは径5~10mmの岩片に細片化する。割れ目沿いの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。 49.38~52.75m: 傾斜50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。	3 (0), 4 (0)	D', CL', D', CL', CM'																							
49				花崗斑岩	灰褐色	Dg, Eg, Vg, IVg	Vg, Dg	cg, dg		2	45.09~45.82m: 風化で軟質化する。割れ目割れ目自体で、割れ目沿いに砂状化する。粘土層は少ない。 45.54m: 傾斜55°で幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。 45.82~45.89m: 上端55°、下端55°の直線的にシヤープな割れ目に囲まれ、灰白色粘土と径5~10mmの岩の岩片からなる粘土混じり岩片状の硬質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。 45.89~47.47m: 風化により一部の割れ目は消滅しないし、消滅しかつている。残留する割れ目は傾斜60~70°が主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン藍染を受ける。 47.20m: 傾斜50°の割れ目は幅4~7mmで径2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。 47.20m以深では、傾斜50°前後の割れ目や低密着割れ目が1~2cm間隔で分布し、その殆んどに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。 ●47.47~47.89m: 破砕部 (D-I破砕帯) 47.47~47.48m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜65°で直線的にシヤープに連続。径1~2mmの石英粒を少量含む。軟質。灰褐色を呈する。幅3~6mm。 47.48~47.66m: 粘土質硬状部 (Hb) 上端65°で直線的にシヤープに連続。下端は不明瞭で漸移的である。径2~3mmの石英粒と径5~10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片の多くはマンガン藍染で黒褐色化する。幅67mm (63°)。 47.66~47.86m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシヤープに連続。径10~40mmの一部粘土化。一部硬さ「E」ないし「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン藍染で黒褐色化する。全体は灰黄~灰白色を呈する。幅90mm (63°)。 47.86~47.89m: 粘土質硬状部 (Hb) 上端63°、下端60°、でも直線的にシヤープに連続。径2~10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。 47.89~48.30m: 風化で割れ目の一部は消滅しないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色を呈しない。淡黄色のや硬質な粘土脈を挟む。また、弱くマンガン藍染を受け、黒褐色化する。 48.30~48.61m: 傾斜40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する20~30°も分布し、両者が交差する48.40~48.45mでは径5~10mmの岩片に細片化する。割れ目沿いの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。 49.38~52.75m: 傾斜50~60°とこれらに斜交~直交する20~50°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。	3 (0), 4 (0)	D', CL', D', CL', CM'																							

第7.4.4.225図 (10) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘進速度 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN · MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)				
51										50.63~50.66m: 割れ目沿いに径3~10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は挟まない。 50.73~50.85m: 傾斜50~60°の割れ目沿いがやや赤色を帯びる。	10 [10]	GM'																		
52				花崗斑岩	灰褐色	Bg	IVg	bg	γ 2	51.38~51.42m: 傾斜50~60°の割れ目沿いにやや軟質化し、硬さ「C」となるが、粘土化や粘土層は挟まない。 51.38mの割れ目沿いは砂状化する。	10 [10]	GM'																		
53										52.17m: 傾斜50~60°でやや波打つ割れ目沿いが幅1~3mmの緑泥石化により緑灰色化し、径0.5mm以下の微細な金属鉱物が出る。 52.75~53.58m: 傾斜30~60°の割れ目が主体で、割れ目に砂状部や粘土化部~粘土層は挟まない。一部、微細な割れ目が分布するが、密度は高く、ハンマーの打撃では分離しない。 52.91m: 傾斜50°で幅2~4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。一部、溶脱部を伴う。	11 [29]	GM'																		
	-27.68	54.00								53.58~54.00m: 傾斜20~60°の割れ目と一部で同方向の低密度割れ目も分布する。一部では、ハンマーの打撃で低密度割れ目沿いに分離、岩片化する。	11 [24]	GM'																		

第7.4.4.225図 (11) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)



第7.4.4.225図 (12) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)



第7.4.4.225図 (13) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)